

Japanese

Five Definite Identifications Of The True Church Of The Living God

60-0911E

「生ける神の真の教会を見分ける五つの確 かなしるし」

ジェファソンビル インディアナ州 アメリカ合衆国
1960年09月11日夕刻



www.messagehub.info

ウィリアム・マリオン・ブラハム

"...第七の御使が吹き鳴らすラッパの音がする時には、神がその僕、預言者たちにお告げになったとおり、神の奥義は成就される。" 黙示録 10:7

はじめに

際立ったウィリアムブラナムのミニストリーは、マラキ4章4,5,6及びルカ書17:30と黙示録10:7と多くの聖書の預言に対する聖霊からの答えなのです。この世界規模のミニストリーはこの終わりの時に聖霊による神の御業の継続なのです。それは聖句の中にあり、イエスキリストの再臨のためにある人々を整えるために立ち上げるために必要とされていると書かれています。

あなたが祈り深くこのメッセージを読むとき、この印刷された御言葉があなたの心に刻まれるようにと祈ります。

メッセージの正しい転写、翻訳を提供できるように最善を尽くしておりますが、英語の録音がウィリアムブラナムによって語られた説教をもっともよく表しているものです。

オーディオや転写された1100の説教がウィリアムブラナムによって語られたものが無料でダウンロード可能で又多くの言語で印刷可能になっています。(日本語での翻訳あり)

変更が行わないかぎり、メッセージを無料でコピー、配布することは許可されています。

「生ける神の真の教会を見分ける五つの確かなしり」

1 ありがとうございます、ネヴィル兄弟。主の祝福がありますように。今夜ここにいられることは、本当に特権です。神が私たちにこうすることをお許しくださったことを、とても嬉しく思います。私はカメラを向けられるのが少し苦手なんです。私は……どうぞ、そのまま撮ってください、それで結構です。ただ、ついそちらに目が行ってしまっ、意識してしまうんです、それで……。でも大丈夫です、構いません。

さて、少し暑いですね。私たちはこれまでに、主からの二つの力強いメッセージをいただきました。

2 そして今夜は、ここに来てくださっている私の友人方の多くが、遠い道のを運転して帰らなければならないことを思っておりました。

中には、はるかケンタッキーの南の方から来ておられる方もいます。ここには、ジョージア州ティフトンから来られたウェルチ・エヴァンズ兄弟とご家族もお見受けします。カリフォルニアから来られた方々にも、外でお会いしました。ドイツから来ておられる方々もいますし、ほかにもさまざまな場所から、この小さな所へ集まって、主に仕えるために来ておられます。

それから、ネリー・コックス姉妹もお見受けします。たしか、そのお義母さんたちも来ておられると思いますが、今夜はおそらく、ケンタッキー、ジョージア、テネシーの方へ、またオハイオの方へと、長い道のを帰って行かれるのでしよう。ここには私の友人たちもおります。ここにおられる友人のひとり、テッド・ダドリー兄弟は、遠くアリゾナ州フェニックスから来ておられます。ほかにも大勢の方々がおられます。一人一人お名前をお呼びできたらよいのですが、皆さん今日、私たちと共にいるために来てくださったのです。その九十パーセントの方々は、まだ手を触れてご挨拶することさえできておりません。シカゴから来てくださった友人たちも見えますし、また本当にあちらこちらから来ておられます。

この中で町の外から来られた方は、手を挙げてみてください。

会衆の九十パーセントですね。

さて、ここには、国内のあちらこちらにあるさまざまな教会から来られた友人方が集まっておられるのです。

3 それに、今朝は長いこと説教をし、病人のために一時半まで祈っておいりましたので、少し声がかれているんです。ですから、しばらく話して、いわゆる第二速に入るまで少しかかるでしょう、その前に……。

あそこにおられるのはリー・ヴェイル兄弟です。私はほんの少し手を交わしたただけですが、彼は私の協力者のひとりです。オハイオのバプテスト教会の方です。

そこにいるのはベンですか。[「アーメン」]

まだあなたの「アーメン」を聞いていなかったのだから、そうでなければすぐ分かったのですが、皆さん、ベン兄弟をご存じでしょう。彼が町の外から来ていることは知っていますが、ちょっと……。

今はどちらから来られたのですか、ベン兄弟。

インディアナ州ボーデンです。

4 皆さんがここにいてくださることを、私たちは本当に嬉しく思っています。

そして今夜は、皆さんが長い道のりを運転して帰らなければならないので、あまり長く引き留めるつもりはありません。今夜は皆さん一人一人を自分の家に連れて帰れたらどんなによいかと思います。本当にそう思っているんです。私は明け方の三時から四時の間には出発しなければなりません、それでも皆さんと一緒に連れて行けたらと思います。

ここにはアーカンソーから来ておられる私の友人と、その奥様も見えます。あなたは、先日の夜ここで、主が語ってこれらのことを告げられた、あの方ではありませんか。そうだったと思います。こうして見渡しますと、新しい友人たちも、昔からの友人たちも見えます。

ですから神は、私の心の思いをご存じなのです。私は皆さん一人一人にお会いして、自分の家にお連れし、ゆっくり語り合いたいと思っているのです。しかし、いつの日か、私たちはそうできる時を迎えるでしょう。その時には、「急がなくてはならない」「子どもたちを迎えに行かなくては」「誰かが病気だ」などと言う必要はなくなります。その時には、そういうことはみな終わっているのです。あの偉大な日に。

私は、これからもなお何度も皆さんと会えることを願っています。

5 さて今、私は主を待ち望みながら、自分の進むべき方向を見いだそうとし

ております……。そして火曜日には、これまでの生涯のどの時よりも祈りを必要とすることになるでしょう。どうか私のために祈ってくださるよう、お願いしたいのです。私は皆さんのお祈りを必要としています。どうか必ず、私のために祈ってください。

火曜日に風向きがどう変わるかということは、私にとって、また教会にとって、そしてキリストの働きにとって、大きな意味を持つかもしれません。ですから、どうか必ず私のために祈ってください。

6 さて、それで、どの方向へ進むべきか、また何をすべきかがはっきり分かるまでは、私は主を待ち望んでおります。その間は、このタバナクルに出入りしながら、説教し、病人のために祈り、できることは何でもしていくつもりです。

そして私たちは、いつの日か、もし政府がそれを差し止めなければですが、ここに教会堂を建てたいと願っています。十分な座席数があり、一階席があつて、バルコニー席もある、そうした本当に立派な教会です。さらに空調も整えて、人々が快適に座って礼拝を聞けるような、そんな良い教会にしたいのです——もしそれを許してもらえらるならですが。そうなることを願っています。

どうか、私たちのために祈ってください。

7 そして今夜は、今朝お約束した題に取りかかろうと思います。主のみこころでしたら、今夜それについて話したいのです。今夜は、この声の具合もありますので、どちらかと言えば教える形になるでしょう。

今夜お話ししたい題は、

「生ける神の真の教会を見分ける五つの明確なしるし」

です。

真の教会に対する五つの確かな立証、いや、むしろ、真の教会を見分ける五つの明確なしるし、ということです。

必要でしたら、この最後の vindications / identifications の言い直し部分を、ブラナム兄弟らしくもう少し自然な日本語に整えた版もお出しできます。

8 では、この大きく力強い主題に入る前に、ひとことお祈りをお願いしたいと思います。私たちの牧師であるネヴィル兄弟に前に来ていただき、私たちが皆でマタイによる福音書16章18節を開いている間、神の御言葉の上に祈りをさ

さげていただきたいと思います。まずはマタイ16章18節です。ネヴィル兄弟が慰めの祈りのために前に来られる間に、お聞きください。

[ネヴィル兄弟が祈りを導く。]アーメン。

(これ、もう音量はこれ以上上がらないのかな。これで全部ですか。これはマイクですか、合ってるマイクですか。)

私の声、ちゃんと聞こえますか。後ろのほう、聞こえますか。

よろしい、結構です。

9 それでは今、マタイの福音書16章18節をお読みしたいと思います。17節から読み始めます。

イエスは答えて言われた、

「バルヨナ・シモン、あなたは幸いである。これをあなたに明らかにしたのは肉と血ではなく、天にいますわたしの父である。

そして、わたしもあなたに言う。あなたはペテロである。わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てて、黄泉の門もそれに打ち勝つことはできない。」

神が御言葉に祝福を加えてくださいますように。

10 「教会」という言葉について、今夜私が皆さんにお話ししようとして選んだこれらの主題の一つ一つの中には、こういう問いがあります。すなわち、

「教会とは何か。だれがそれを建てたのか。そのメッセージは何か。私たちはどうすればその一員になるのか。そして、その一員でなければ天国へ行くことはできないのか。」

ということです。

さて、これら一つ一つの題だけでも、行きつ戻りつしながら何時間でも語ることができるでしょう。しかし今夜は、本当の教会が何であることを示すために、ただいくつかの基本的な要点に触れたいと思います。

それで皆さん、どうか聖書をお手元にお持ちください。

11 さて、まず第一に、「教会」という言葉そのものは、「呼び出された者たち」と

りますように、お姉さん。神のご加護がありますように。はい、ずっと後ろにあなたの手が見えます。神のご加護がありますように、ここにあなたの手が見えます、息子よ。ここで手を見てください、兄弟。はい。神のご加護がありますように、そしてこの小さな女の子、そこにいる若い女の子。神のご加護がありますように。他の人、手を挙げてください。ここに座っているこの妹に神のご加護がありますように。“会員になりたいです。今夜この建物から出るとき、私は神の血を受け止めたいと思っています。そうすれば、外に出て自分の人生が「聖なる、主に」と叫ぶことができるでしょう。”息子よ、あそこに神のご加護がありますように。神はあなたに祝福を与えてくださいます。今、他の誰か、手を挙げてください？他の誰かが言います、“神よ、私を憐れんでください”？もし私たちがこの歌を歌っている間に、祈りの言葉を求めて祭壇まで歩きたいなら、“家に帰れ、家に帰れ、疲れた者たちよ、家に帰れ。”自分の状況がわからない場合は、ぜひ来てください。

ので記録は正確です。とても嬉しいです。

誰かが言いました。“私は神を求めました、私は神を求めました。”それは聖書に反しています。それは神があなたを求めているのであり、あなたが神を求めているではありません。神はエデンの園を上り下りして叫びました、“アダム、あなたはどこにいるのですか？”アダムが泣いているわけではありません、“神よ、あなたはどこにいるのですか？”泣いていたのは神だった、“アダム、どこにいるの？”

111 ああ、彼女の一人員でいて本当によかったですね？この素晴らしい教会にとっても満足しています。こんなに遅くまでお待たせしてごめんなさい。しかし、あなたはこの偉大な教会を信じますか？信じますか？神秘的な体だと信じますか？

さて、カトリックの皆さん、その一人員になるためにしなければならない唯一のことは、イエス・キリストを受け入れ、御霊から生まれることです。バプテスト派、メソジスト派、長老派、ルーテル派、あなたが何であれ、ここで聞いてください。私がペンテコステ派のために取り上げているとは思わないでください。ペンテコステ派の反逆者は他の教会と同じくらい多いです。まさにその通りです。彼らは名前と職業だけでやって来ます、それだけです。しかし、憑依、彼らはそれを持っていません。そうだね。なぜなら、あなたが御霊から生まれたとき、あなたは新しい被造物となり、神はあなたを息子として扱い始め、あなたは神の御霊に導かれるからです。あなたがどの組織に属していても、それはそうではありません。..それは過ぎ去る小さな古い世俗的な秩序にすぎません。しかし、あなたはこの偉大な神秘的なキリストの体の一人員ですか？そうでない場合は、今夜、私たちが頭を下げて祈るときに、神を受け入れてくださいますように。

112 私たちが今考えている間、ここにあなたの手を挙げて、「“神よ、私はあなたに手を挙げます」と言う人がいるでしょうか。今夜私をその教会の会員にしてください。出産をください、それは私のものです。主よ、私に電話しましたか？それなら私はその教会の会員になりたいです。私はこれらの地上の組織のいずれかに属していますが、その経験はありません。私には悪魔を追い出して、あなたが信者に従うと言ったようにこれらのことをする力はありません。それはまだ受け取っていません、主よ。そしてあなたは「サインは..」と言いました Shall は、あなたがそうすることを意味します。力をください、主よ。”

113 神のご加護がありますように。神のご加護がありますように、そしてあなた、そしてあなた、手を挙げていますすべてのあなた。神はあなたを祝福し、この偉大な教会、イエス・キリストの教会の会員となる力を与えてくださいます。祈りを捧げる前に、他の誰か？神のご加護がありますように、お嬢さん。神のご加護があ

いう意味です。

イスラエルは、エジプトにいた間はまだ神の教会ではありませんでした。彼らは神の民ではありませんでした。しかし神が彼らをエジプトから呼び出された時、彼らは神の教会となったのです。なぜなら、彼らは呼び出された者たちであったからです。

さて、これは今日でも同じことです。

「教会」という言葉は、「呼び出された者たち」、すなわち、呼び出され、分けられ、他と異なる者とされた人々、という意味なのです。

12 さて、旧約聖書においては、知られている教会は「神の御国(王国)」と呼ばれていました。これは聖書の年代的な流れから申し上げます。旧約では、教会は「神の王国」と呼ばれていたのです。言い換えれば、神は王であられ、教会はそのご支配の領域なのです。旧約における神の王国です。

新約聖書では、それは「メシヤの帝国」と呼ばれています。ああ、私はこの言葉が好きです——メシヤの帝国。つまり、メシヤが支配し、治めておられる帝国ということです。そこには教派の壁も何もありません。ただメシヤがご自身の帝国において支配しておられるのです。何とすばらしい考えでしょうか。メシヤの帝国。

それゆえ、教会は組織ではありません。教会は人々の集まりそのものでもありません。教会とは、この世から呼び出されて、別の王国において仕えるために召された神の民なのです。

13 これは引用するに値することでしょう。数か月前、妻と私はショッピングセンターへ行こうとしていました。そこで、私たちは何とも不思議なことを見つけたのです。通りに、スカートをはいた女性がいたのです。ああ、信じられないかもしれませんが、実際に一人見つけたのです。すると妻が私に言いました。「まあ、あれをご覧になって。」

私は言いました。「あの人はきつとクリスチャンなんだろう。あまりにも違っているからね。」まったく嘆かわしいことです。

そこでこういう疑問が出てきました。「どうしてなの、ビル。私たちクリスチャンは、また私たちの信じているこの信仰は、どうして女性たちにドレスを着るように、あのようにふるまうように求めるのかしら。他の教会の人たちだっているでしょう。あの人たちはああいう服を着ている、あの不道徳な服を。それはどうしてな

の？あの人たちが不道徳そのものだとは言えないでしょう。」

私は言いました。「それはその通りだ。私はだれをも裁くことはできない。しかし、彼らはその実によって知られるのだ。実際にその罪を犯していないかもしれない。しかし、その人たちの上には、不道徳へと駆り立てる霊があるのだ。」

14 さて、イエスはこう言われました。

「女を見て情欲を抱く者はだれでも、すでに心の中でその女と姦淫を犯したのである。」

では、その罪人が姦淫を犯したことについて答えなければならない時、だれに罪があるのでしょうか。自分をそのように人前にさらしたその女です。あなたは貞潔という点では百合の花のように純潔であるかもしれませんが、しかし、もし不道徳な仕方自分を人々の前にさらしたなら、たとえ行為そのものには無実であったとしても、あなたはある男にあなたについて悪い思いを抱かせたのです。それはあなたに責任があるのです。

イエスは、あなたは姦淫の罪を犯したことになると言われました。

そして、姦淫を犯す女は決して天国に入ることはできません。

15 しかし、世界を巡って行くと、私はそれぞれの国にそれぞれの霊があることを見いだします。しかも、すべての国々は悪魔によって支配されています。すべての政府は悪魔に支配されているのです。聖書はそう言っています。彼らは戦い、争います。そしてイエスが来られる時までそうし続けるでしょう。その時になると、主は戦争のない王国をお建てになります。

しかしサタンは、この世のすべての国々は自分のものであり、自分の思うままにできるのだと、まさにイエス・キリストの面前で言ったのです。ですから、それらは皆サタンの道具であり、サタンの王国なのです。サタンはイエスに、「もしひれ伏して私を拜むなら、これらをあなたに与えよう」と言いました。

イエスは、千年王国においてそれらをご自身のもので受け継がれることをご存じでした。それで、「サタンよ、退け」と言われたのです。神がすべての国々を主にお与えになること、そしてそれらが主のものとなり、一つの王国となることを、主は知っておられたのです。

16 ドイツへ行けば、ドイツの霊を見いだします。イギリスへ行けば、イギリスの霊を見いだします。スウェーデンへ行けば、スウェーデンの霊を見いだします。

108 それはキリストの一種でした。そして、大きな斑点のある鳥は、死んだ仲間である救い主イエス・キリストの血によって斑点のある教会です。そして彼女は今日、羽をバタバタさせながら世界を横断し、泣いています。“聖なる、聖なる、聖なる、主に！”アーメン！彼女のことを知ってとてもうれしいです。彼女の本に私の名前が載っていてとてもうれしいです。私の善良さ(いいえ、先生、私は決してそこにはいません)やあなたの善良さによってではなく、神の善良さと慈悲によってそこに置かれました。世界が建国される前に、私たちの名前を神の書に記してください。

109 教会の識別は何ですか？彼女は何になるべきですか？彼女は何だった？何なんだよ？呼び出されたグループ。誰が仕組んだ？イエス・キリスト；司教でも、カトリック教会でも、メソジストでも、ルターでも、ウェスリーでもありません。いいえ先生。誰が仕組んだ？イエス キリスト。そのメッセージは何ですか？悔い改め、水のバプテスマ、聖霊のバプテスマ、神の癒し、救い。どうすればそのメンバーになれるのでしょうか？そこに生まれることによって。それなしで天国にたどり着くことはできるのでしょうか？いいえ先生！なぜなら、キリストにあって死んだ者は神が連れて来られるのであり、キリストにあって死んだ者以外の誰も連れて来られないからである。イエスはキリストにあって死んだ者たちのために来られます。エペソ人への手紙第4章では、次のように述べられています。いいえ、ガラテヤ人よ、私はそう信じています、第4章では、“キリストのうちに死んだ者は神が連れて来られるだろう、と書かれていました。キリストにおいて死んだ者は神が彼とともに連れて来られるでしょう。”

110 したがって、今、彼女は召集されたグループ、神秘的な体です。キリストはそれを整えてくださったのです。神は死ぬ前に、それが来ることを語られました。彼は言った、「私は来て、この領域の王になります。」。少しの間、そして世界は私を見なくなるでしょう；それでもあなたは私を見るでしょう。あなたは世界の王国とは何の関係もありません。”

それが彼らが“バビロンと呼ばれる混乱に陥っている理由です。”1つ、“神のご加護がありますように、私は長老派教会員です。”“神様、私はメソジストです。”“神様を祝福してください、私は…”神を祝福してください、私はクリスチャンです！アーメン。それじゃ、どうすれば自分がそうだとわかるのでしょうか？これらのしるしは信者に続きます。ほら、身分証明書があるよ。言わないでください、“ちよっと待ってください、フェローシップカードを受け取ったと思います。”いいえ。何も持っていません。私のものはそこにあります。ここでこれを失うかもしれません；しかし、神は私に、世界が始まる前に、王国に入ってくるすべての人に私の身分証明書一をくれたと言いました。天国に保管されている

は。…”ヘブライ語でその名前「神」を取り、それが何を意味するのか見てみましょう。El, Elah, Elohim と綴られ、これは “すべての… 自立した者、すべての十分性を持つ者、強い者” を意味します それまでは何もなかった。それ以前は、空気も星も湿気も大気も原子も分子も何もありませんでした。それは永遠の神、神でした。そして神の中には、救い主であること、父であること、神であることなどの特質がありました。He wasn't God then; He was God, but there wasn't nothing else, no worship. 彼は神ではなかったが、彼は神だったが、他に何もなかった、崇拜はなかった。つまり、神は “崇拜の対象” であり、神を崇拜するものは何もありませんでした。ですから、神の中には、一救い主であること、癒し手であること、これらすべてのものであることという属性がありました。

106 それで彼が最初に作ったものは… さて、私の創世記の物語について知りたい人もいます。神は言いました。“人間を作りましょう。” 神が最初に創造したのは天使であり、神を崇拜し、その後神になります。そして、神がこう言われたとき、“私たち自身のイメージに従って人間を作りましょう”、神はどのような人間を作ったのでしょうか？スピリットマン。そして、神がその男を作ったとき、神は彼にコントロールを与えます。Then He made man out of the dust of the earth; then he fell. それから彼は地の塵から人を造った。それから彼は救い主になります。神、そして救い主。罪は病気をもたらしました；それから彼は治療者になります。ハレルヤ！何も問題は起きていない、彼は世界が形成される前からそのすべてを知っていた。彼は私たちが今夜この会議を開くことを知っていました。彼は、地球上にすべてのブヨがいること、そしてどれだけの獣脂を作るか、そして何回目を叩くかを知っていました。無限の神だ。彼はすべてを知っている。アーメン！今夜、あなたの名前が本に載って嬉しくないですか！？

107 “斑点のある大きな鳥について、私はなんと美しい考えを思い浮かべていることでしょう。そして、彼女の名前は神の聖なる言葉のページに記録されていると言われていました。” 他の鳥たちは皆彼女の周りに集まっています。彼女は彼ら全員から軽蔑されています。あの斑点のある鳥は何だった？私はそれが間違っていたと言ったあの男とは意見が異なります。聖書のまだら模様の鳥は何でしたか？彼らが言ったように、それはイスラエルではありませんでした。それはイエス キリストの教会でした。罪のいけにえとして、彼らは何をしたのでしょうか？彼らはキジバトを取り、その頭を引き抜いてひっくり返し、生きている配偶者に血を注ぎ、配偶者を放しました。そして、死んだ仲間の血を振りかけた仲間は、翼を飛ばしながら振りかけながら地球を横切りました。そして地上に飛び散った血は叫んだ、「“聖なる、聖なる、聖なる、主に。”。聖なる、聖なる、聖なる、主に。”

フランスへ行けば、フランスの霊を見いだします。アメリカへ来れば、アメリカの霊を見いだします。

少し前、私はローマのサンタンジェロで、カタコンベを見たいと思いました。そして驚いたことに、またアメリカ人として戒めを受ける思いがしたのですが、そのカタコンベの入口の門に、こう書いてありました。

「アメリカ人女性へ。ここに入る前に、どうか衣服を着て、死者に敬意を表してください。」

一つの国がそこまで落ちてしまうとは、何とも恐ろしいことです——私たちがそんな所まで来てしまった時には。ですから、わかるでしょう、なぜなら……。

17 私はある時、一人の女性に、「あなたはクリスチャンですか」と尋ねたことがあります。

するとその人は、「私はアメリカ人ですよ、もちろんクリスチャンです」と言いました。そんなことは何の関係もありません。

ある晩、ボズワース兄弟も一人の女性にこう尋ねました。

「姉妹、あなたはクリスチャンですか。」

すると彼女は、

「言っておきますけど、私は毎晩ろうそくを灯しているんですよ」

と言いました。まるで、ろうそくを灯すことがキリスト教と何か関係でもあるかのようにです。

キリスト教とは、そのようなことから成っているわけではありません。

そして神の教会もまた、そのような外側の見かけによって成り立っているのではないのです。

18 では、何が女性たちをそのようにさせるのでしょうか……。

私たちは、女性たちにそうしなさいと強制したことは一度もありません。男性たちに、酒を飲むとか、のろうとか、そういうことを無理に強いたこともありません。私たちはただ福音を宣べ伝え、聖書の型を示しているだけです。

ペンテコステの信仰や聖潔の信仰に入って来る多くの男性たちは、心の

中ではそうでないのに、そうであると告白します。多くの女性たちも同じことをします。私たちは、彼らにそうしなければならないとは言いません。ただ型を示すのです。聖書が何と言っているかを告げるのです。

そして、もしその人が天からの霊によって生まれているなら、その人の霊はもはやアメリカ化されたものではなく、もはやドイツ化されたものでもなく、天のものとなっているのです。そこには神の国があるからです。なぜなら、私たちは別の王国、すなわち、礼節と聖さと力のある神の王国の中にいるからです。

19 私たちは、私たちの王のもとへ行く道を持っています。王を呼び求めたい時には、いつでもお会いすることができるのです。私たちと王との間には、ほかの執り成し手も、ほかの仲介者もありません。ただひとりの人、キリスト・イエスだけです。ですから、私たちは一つの王国の中に生きているのです。

そしてそれは、聖書の年代的な流れの中では、「メシヤの……メシヤの王国」と呼ばれています。言い換えれば、メシヤがご自身の支配の中にある一つの人生を治めておられる所、すなわち、あらゆる立場の中から呼び出された人々の生活を支配し、その人々を一つの群れとして集めて、それをご自分の「教会」、あるいは「呼び出された者たち」と呼ばれるのです。

何と美しいことでしょう。

20 さて、イスラエルは神の「民」ではありましたが、——書き留めておられるなら使徒行伝7章38節にあります——その時になって彼らは神の「教会」と呼ばれるようになりました。なぜなら、彼らは神によって、エジプトから、この世から、他の教会から離れて、他の宗教から離れて、ただ神と共に歩むために呼び出されたからです。

そして今日の神の教会も、まったく同じです。世のあらゆるものから呼び出され、あらゆる宗教的カルトから呼び出され、あらゆる教派から呼び出され、あらゆる宗教組織から呼び出されて、神と共に歩むのです。司教に支配されるのではなく、私たちが生きているこのメシヤの王国において、キリストによって治められるのです。

キリストが王です。

キリストこそ、そのお方なのです。

21 さて、キリストはこのメシヤの王国のかしらです。キリストがこの王国のかしらなのです。ですから、キリストがかしらである王国を、人間が組織化することは

神はどうやってそれをしたのでしょうか？彼は何をしたのですか？彼らはヨルダンに到着し、約束の地に入り、キリスト イエスの中で天の場所に座っていました。これは、“天の祝福とともに私たちを祝福してください”教会としての御言葉の教えであり、私たちが教会のような天の場所に一緒に座しているとき、キリスト イエスにある召された者たちです。キリスト イエスの中で生まれました。聖なる、呼び出された者たち。ああ、私の！何かを教えられる人！彼はコリント人と多くの問題を抱えていましたが、この教会とはそうではありませんでした。彼は彼らに素晴らしいことを教えることができた。よし。

103 私たちをすべて祝福してくださった私たちの主イエス キリストの神であり父である方が祝福されますように[私の最後の2つのメッセージを覚えていますか？] キリストにある天上の場所におけるすべての霊的な祝福：

[聞いてください、今この衝撃を与えてください] 彼が[過去形]で私たちを選んだように[最後のリバイバルで？それを正しく読んだでしょうか？]… 神が世界の基が置かれる前[世界の前、ここを見てください]、世界の基が置かれる前に、私たちを神の中に選んだように、私たちは聖なる者であり、愛において神の前に非難されることなくあるべきです：

プレデスティードを持って。…

私たちは何をしましたか？何もない。彼がやったことは私が見ていることです。彼はいつそんなことをしたのですか？..?世界が始まる前に、この神秘的な体の一員となるために、私たちを選び、神の書物や教会の書物に名前を載せてください。

そして、イエス・キリストがご自身の意志に従って、ご自身に子供を養子として迎えることを私たちにあらかじめ決めておられます

104 ふう！兄弟よ、もし成功したら、あなたはその教会にいなければなりません、なぜなら彼は教会のために来ているからです。どんな教会？斑点もしわもない教会！どうすればそんなことができるのでしょうか？キリストの中で死んで、聖霊によって神秘的な体にバプテスマを受け、一日中毎時間私たちのために横たわっている神の子を血で償うことによって！非難の余地がない、それが斑点もしわもない教会です。神は私たちを神の中で選び、私たちの名前を神の書に記してくださいました。聖書には、“イエス キリストは[1900年前に殺された小羊であると書かれていましたか？どれくらい？]、世界の基礎から殺された子羊。”

105 聖書、創世記の言葉、創世記 1 章で神がこう言われたとき、“初めに神

てください。彼の中にある永遠の命が彼をよみがえらせるでしょう。

100 さて、教会にいらなくても天国に行けるでしょうか？生まれ変わるまでは教会にいることはできません。生まれ変わるまでは天国に行けない。生まれ変わったら教会にいるよ。だから、この教会の会員になるまで天国に行くことはできません。そして、生まれてくるまではメンバーになることはできません。

それでは、少し窒息させてください。そして、神があなたを会員に召さない限り、あなたは会員になることはできません。さて、あなたはそのことでどれほど幸せになるべきでしょうか。なぜなら、あなたは世界の建国前に運命づけられていたからです、そしてあなたの名前(ふう!) あなたの名前は、世界の建国前に、小羊のいのちの書、教会の書に書かれていました！それが聖書です。聖書には、反キリスト、組織、カトリック教会、その他の組織は、世界の建国前に小羊のいのちの書に名前が書かれていなかった地上のすべての人を欺くだろうと書かれています。イエスは言われた、“父がわたしに与えてくださったものはすべてわたしのところに来るであろう。”それは彼自身の言葉です。あなたがしたことではなく、神がなさったことです。

101 ちょっとそれを解決しましょう。すぐにエペソ人への手紙の最初の章に移りましょう。これを聞いてくれ ポールだ。さて、彼はこの教会で完璧に進まなければなりません。パウロはこれをクリスチャンに伝えています。ここに何人のクリスチャンがいるか、あなたの手を見てみましょう。よし。これは赤ちゃんのためではありません、今、これは肉を食べることができる人です。さて、最初の章では、彼が誰にそれを話しかけるかを見てください。

パウロは、神の意志によるイエス・キリストの使徒であり[司教の叙階によるものでも、組織によるものでもありません]、使徒であり[神の意志によって遣わされた使徒]であり、エフェソスの聖徒たち[聖別された者たち、あるいは聖徒たち]、そしてキリスト・イエスに忠実な者たちです

彼がそれを誰に話しかけているのでしょうか？すでに教会にいる人たちへ。あなたがキリストのうちにいるとき、あなたはキリストの体の中にあります。そうか？じゃあ君は教会の会員だね。

102 私たちの父なる神と主イエス・キリストから、あなたに恵みと平安がありますように。

キリスト・イエスにおいて天上のあらゆる霊的な祝福を私たちに与えてくださった私たちの主イエス・キリストの神であり父である方が祝福されますように

できません。キリストがかしらである王国を、教派化することもできません。なぜなら、キリストは王だからです。人間の知的な考えを持ち込んで、キリストが支配なさるべきものを一つの組織に作り変えることはできないのです。

それゆえ、どんな団体であれ、どんな人々であれ、どんな集団であれ、神の王国を組織化しようとするなら、それは王に逆らうこととなります。そして王に逆らうなら、それは王に敵対することです。もし王に敵対するなら、それは反キリストということとなります。これはかなり厳しい言い方です。もう少し声が出れば、もっとはっきり説明できるのですが、それは反キリストなのです。

そして、もし少しの間私に付き合ってくださいるなら、それを証明してみせましょう。反キリストの霊は、人々を一つの組織から別の組織へと移し、また組織へとまとめ上げようとします。しかし、それは決して神のみこころではありませんでした。人々は、私が組織に対して非常に強く語るのを、いつもそれを問題にしました。しかし、私が打っているのは、その中にいる人々ではありません。私が打っているのは、「自分たちこそその民なのだ」と人々に思わせる、その支配的な霊なのです。

22 神の民とは、神に呼び出された民です。私は、その人たちはあらゆる教派の中にいると信じています。カトリックかもしれないし、プロテスタントかもしれないし、ユダヤ教徒かもしれないし、どのような教会に属していてもよいのです。しかし、真の教会とは、イエス・キリストの神秘的なからだなのです。

さて、キリストの神秘的なからだは組織化することはできません。キリストのもとに来る者はみな——この世から出て、キリストの中へ入る者はみな——その神秘的なからだの中へ入るのです。そしてあなたが、この呼び出された者たちの教会の中へ導き入れられ、この神秘的なからだの中へバプテスマされる時、あなたはそのからだの一員となるのです。

おわかりでしょうか。メソジストでもなく、バプテストでもなく、ペンテコステ派でもなく、ナザレンでもなく、ピルグリム・ホーリネスでもなく、カトリックでもない。イエス・キリストのからだなのです。

このことは、もう少し後で、そのさらに深い部分に入っていく時に、ほかの問いの中で、もう少し深く取り上げることにしましょう。

しかし、キリストのからだこそが教会なのです。

23 さて、主はこれを多くのたとえで語られました。夫と妻のようなものとしてです。主は教会を「花嫁」と呼ばれます。そして花嫁と花婿は、もはや二人では

ありません。彼らは一つなのです。彼女は彼の肉の肉、彼の骨の骨なのです。

それと同じように、男であれ女であれ、聖霊によってキリストの神秘的なからだへ召される時、その人が聖霊に満たされるなら、このからだの完全な一員となるのです。なぜなら、神はキリストからその御霊を取り、キリストのからだをよみがえらせて、ご自身の御座に着けられ、そして再び聖霊を送り返して、キリストの神秘的なからだを形作られたからです。それは、主の来臨の時、婚宴において一つに結ばれるのです。

これは組織化できるものではありません。

それは奥義なのです。

24 イエスはニコデモにこう言われました。

「風は思いのままに吹く。あなたはその音を聞くが、どこから来てどこへ行くのか知らない。御霊によって生まれる者もみな、それと同じである。」

あなたにはそれを理解し尽くすことはできません。それはどこからか来るのです。それはメソジストではなく、バプテストでもなく、ペンテコステでもなく、どんな組織でもありません。それは誕生なのです。神の王国の中へ生まれることなのです。

ですから、それを組織化しようとするなら、それは反キリストへと導くこととなります。なぜなら、キリストの教えに逆らうものは何であれ反キリストだからです。

25 では、その組織というものは、いったいどこから始まったのでしょうか。イエスは地上におられた時、どの教会も組織されませんでした。来たるべき教会については語られましたが、どの教会も組織はされなかったのです。そして、最後の使徒が死んでから何百年もの間も、組織された教会というものは存在しませんでした。地上で最初に組織された教会は、ローマ・カトリック教会でした。

さて、私は『ニカイア以前の教父たち』も、『殉教者の書』も、ヨセフスの著作も、ペンバーの『初代時代』も、また古代の多くの偉大な著述家たちの書物も持っています。しかし歴史のどのページを見ても、ローマ・カトリック教会が組織される以前に、組織された教会が存在したと書かれている箇所はどこにもありません。そしてそれは一つの組織となったのですが、それは神に逆らうものでした。

そしてそれをすぐに理解して、ここでこれを読んで、主が私たちに何を持ってくださっているか見てみましょう。コリント人への第一の手紙第12章、わかりました。そして第3節:

したがって、私は皆さんに理解していただきたいのですが、神の霊によって語る人は誰もイエスを呪われた者とは呼びません。そして...誰も言うことはできません... イエスは主ですが、聖霊によってです。

97 聖霊を受けるまでは何も知りません。あなたは言います、“私はイエス・キリストを私の個人的な救い主として受け入れます。” 信じてから聖霊を受けたのか? そうしないと、彼を主と呼ぶことさえできません。なぜなら、彼は主ではなく、信仰によってあなたが受け入れた歴史的存在だからです。しかし、聖霊によって神があなたのところに来られたとき、神はあなたの主です。誰も聖霊によってのみイエス“主”と呼ぶことはできません。あなたが神の霊から生まれ、聖霊があなたの中にあるまで... もしそうなら、あなたはこの王国に生まれ、教会の一員です。じゃあ、呼び出されたのはあなたです。見えますか? よし、今だ。

98 トウモロコシの中に生命があることを除いて、トウモロコシから生命が生まれるのでしょうか? トウモロコシの粒を地面に置くと、一方は発芽し、もう一方は発芽しません。発芽していないものは、再び生きられるのでしょうか? 決してない。何も入ってない。ただし、物質的には、コーンブレックも他のものと同じくらい美味しくなります。他のコーンブレッドと同じくらいおいしいコーンブレッドになります。棚の上でも他のものと同じくらい見栄えがします。しかし、生命がなければ、再び立ち上がることはできません。

良い人は、クリスチャンと同じくらい良い教会員になれるのです。善良な人は、クリスチャン—善良な人、道徳的な人と同じくらい善良な市民になることができます。しかし、彼が死ぬとき、それだけです; 彼が神の御霊によって生まれ変わらない限り。なぜなら、始まりがあったものにはすべて終わりがあるからです。

99 永遠なのは神だけです。したがって、私たちは神の命を受けることによって神の一部となります。イエスは言われた、“わたしは彼らに永遠の命を与える。” そこにあるギリシャ語のゾーイは、“神ご自身の命”を意味します。そして、あなたが再び生きることができる唯一の方法は、永遠の命、つまり神の命を持つことです—なぜなら、あなたの命は滅びるからです。しかし、神は永遠であるため、神の命は再びよみがえります。そして、あなたには永遠の命があり、神が死ぬことができるのと同じように死ぬことはできません。“わたしを信じる者は永遠の命を持っている。わたしは終わりの日に彼をよみがえらせる。” 彼をもう一度育

ん。エペソ人への手紙 5:25、今すぐ急いで。エペソ人への手紙 5 章と 25 章。さて、5と25です。いいえ、まだ間違ったことがありました。ここに書き留められていません。見てみましょう。したがって、説教者と司祭は。… ああ、そう。少し前にこれを急いで書き留めていたので、間違えたに違いありません。。ああ、間違ったページを入手しました。アーメン。はい。よし。

94 ヘブル人への手紙 12 章と 13 章 “イエスは、自分の血で民を聖別するために、門のないところで苦しみました。”

したがって、人々よ、私たちが教会に来る方法は次のとおりです。悔い改め、罪の赦しのためにイエス・キリストの名においてバプテスマを受け、聖霊のバプテスマを受けるという約束によって。したがって、説教者が私たちにそこに揺さぶることはできません。私たちに誓いを立てることができる司祭はいません。しかし、私たちは救世主王国の王によってその中に生まれました。アーメン。

さて、これだけ、もう一つもらえますか、ここに私が持っていた場所があります。。あと数分だけ私と一緒にいてくれる人は何人いますか？ただ…。9時半、もう時間切れです。

95 さて、“教会なしで天国に行けるでしょうか？”これについていくつかコメントしてください。ご覧のとおり、ここに約 12 件のコメントが書き込まれているからです。でも、一つだけ、私たちが知っているかもしれないことがあります。いいえ先生！この教会の会員でなければ天国に行くことはできません。

さて、まずヨハネ3章と5章で、イエスはこう言われました。「人は水と霊によって生まれる。[『悔い改めよ。罪の赦しのためにイエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、あなたは霊によって生まれる。』]、水によって生まれ、霊によって生まれる。人はこれを悟らない限り、天の御国に入ることさえできない 彼は天の王国さえ見ることができません。“そうすれば、あなたが水と御霊から生まれたなら、あなたは教会にいることになります。あなたが水と御霊から生まれていないなら、あなたは教会にいないので、天の国を見ることはできません。それはあなたにとって意味がありますか？まさにその通りです。

96 さて、ご存知ですか。… あなたはこう言います、“そうですね、ブランナム兄弟、私は信じています [まあ、聞いてください]、そして私は聖霊を受けたことがあります。” いいえ、あなたはまだ信じていません。あなたはただ信じることを信じているだけです。あなたには希望があります。なぜなら、コリント人への手紙第一、第 12 章、第 3 節では、必要に応じて、それに近づいている間にすぐにそれを掴んでみましょう。コリント人への手紙第一 12 章、第 12 章、第 3 節、

さて、もしそのようなことが来るのであれば……。ああ、これを何とか皆さんにしっかりと伝えられたらと思います。もしそのようなものが来るのであれば、それは実に大きな反キリストであるはずですが、もし神が無限なる神であれば、それを前もってご存じないはずがあるでしょうか。神が無限であれば、こうしたことが来るのをご存じないはずがあるでしょうか。そして、もしそれがそのような恐ろしいものであるなら、神は前もってご自分の教会に警告を与えないはずがあるでしょうか。

ですから、私が組織の中にいる人々を攻撃しているのではなく、組織そのものと、その性質を打っているのだということを、今は少しでもよく理解していただけだと思います。どの組織も、それは反キリスト以外の何ものでもありえないのです。

26 するとあなたはこう言うでしょう。

「ちょっと待ってください。あなたは聖書以外のことは何も説教しないと思っていました。」

それでは、聖書自身に語らせようではありませんか。

では今、しばらく読んでみましょう。黙示録17章を開いてください。これは、呼び出された教会に与えられた、イエス・キリストの黙示です。黙示録17章です。できるだけ手短に進めていきたいと思えます。しかし今、読む時によく注意してください。

「すると、七つの鉢を持つ七人の御使いのうちの一人が来て、私に語って言った、『さあ、来なさい。多くの水の上に座っている大淫婦に下る裁きを、あなたに見せよう。』」

さて、これはすべて象徴で表されています。なぜなら、これは封じられたイエス・キリストの黙示だからです。そうでしょう。それは隠された事柄であって、知性的な頭脳によって理解できるものではなく、聖霊によって、御霊の賜物を通して示されるものなのです。

「知恵のある者は獣の数を数えなさい。」

知恵のある者、すなわち知恵の賜物を持つ者は、これをし、あれをしなさい、とあるのです。

そして、これこそが啓示なのです。

27 さて、だれでも知っているように、聖書において女が象徴として用いられる時、それは教会を指しています。キリストの教会は「花嫁」と呼ばれています。パウロは、

「私はあなたがたを清いおとめとしてキリストにささげた」

と言いました。

ところが今ここでは、評判の悪い大きな女について語られているのです。

「さあ、来なさい。見せよう」と御使いはヨハネに言いました。

「多くの水の上に座っている大淫婦に下る裁きを。」

さて、「多くの水の上に座っている女」というのは非常に奥義的に聞こえますが、その意味はすべてここにあります。聖書自身がそれを説明しているのです。では同じ章の15節を開いてみましょう。そうすれば、この「水」が何を意味しているのかがわかります。

「御使いはまた私に言った、『あなたが見た水、すなわちあの淫婦が座っている所は、もろもろの民、群衆、国民、国語である。』」

28 ですから、その女が座っていた水の上に、またその上方にというのは、彼女が国々、民衆、群衆、そして諸国語の民を支配していたということです。彼女はそのすべてを支配していたのです。ひとりの女、しかも名の悪い女として。

さて、もし自然の意味で、ある女がそのように呼ばれるなら、私たちはその女が夫に対して不実であることを知ります。そう呼ばれるのは、まさにそのためです。つまり、一人の男に対しては忠実に生きているふりをしながら、実際にはその男に不忠実に生きている、ということです。そうでしょう。

それなら、これはキリストが自分の夫であると言いながら、その教理がキリストの教えに反している教会のことなのです。彼女は淫婦なのです。そして彼女は、民衆、群衆、国々を支配しています。

「さあ、来なさい。わたしは彼女に下る裁きをあなたに見せよう。」

これで、絵が見えてきました。

29 「地の王たちはこの女と姦淫を行い、地に住む者たちは彼女の姦淫のぶどう酒に酔わされた。」

91 さて、サイモン・ピーター博士が処方箋を書き出しました。

あなたたち医者はどうですか？何か入れようとしているんですか？何も追加しないでください。そのまま受け止めてください。それが教会の使命です。そうやってあなたはそれに入ります。悔い改め、罪の赦しと聖霊を受けるという約束のためにイエス・キリストの名においてバプテスマを受けることによってです。さて、聖書にはそう書いてありました。

“教会に洗礼を受けましたか？教会に洗礼を受けましたか？”

92 ガラテヤ人への手紙 3 章 26 節を少しだけ読んでみましょう。ここにはあと 1 つ、2 つ、3 つしかありません。そうすれば閉店しなければなりません。それでは、ここガラテヤ人への手紙の第 3 章を読んでみましょう。私より先に誰かがそれを手に入れたら、読んで、どうぞ。[妹が読む。]

あなた方は皆、キリスト・イエスを信じる信仰によって神の子なのです。

ガラテヤ人への手紙 3:26?もしかしたら、ここで間違って書いたのかもしれない。それはコロサイ人かもしれない、コロサイ人を読んでみましょう。..私が行こうとしていた場所。コロサイ3:26かどうか見てみましょう。いいえ、3時26分はありません。ガラテヤ人への手紙 3:26、それは今何ですか？ほら、ほら、分かったよ。そうだね。読み続けてください、姉妹、ガラテヤ人への手紙 3:26、あなたが始めたのです。こちらは26、27、28です。さあ、よく聞いてください。[妹が読んでいます。]

あなた方は皆、キリスト・イエスを信じる信仰によって神の子なのです。

なぜなら、キリストにバプテスマを受けたあなた方の多くがキリストを身に着けているからです。

ユダヤ人もギリシャ人もいませんし、絆も自由もありませんし、男性も女性もいません。なぜなら、あなた方は皆、キリスト イエスにおいて一つだからです。

どうやってこの体に入るのか、どうやってそれをしてきたのか？聖霊によって洗礼を受け、キリスト イエスの体の中に入れられました。

93 さて、教会のもう一つのメッセージは、私たちが教会に入る方法は聖化を通じてであるということです。そして聖化、ヘブライ人への手紙 13:12 と 13、“イエスは自分の血で民を聖別するために門なしで苦しみました。”

さて、エペソ人への手紙、ここに行きましょう、それを読まなければなりません

のために書き出されたのか見てみましょう。

さて、これを聞いた彼らは心を刺され、ペテロと残りの使徒たち、人々と兄弟たちに言った、「私たちに何ができるのでしょうか？」[気をつけろ、彼は鍵を持っている。]

そこでペテロは彼らに言った、「悔い改めて、罪の赦しのためにイエス・キリストの名においてあなたたち一人一人にバプテスマを受けなさい。そうすればあなたは聖霊の賜物を受け取るでしょう」。

なぜなら、その約束はあなたとあなたの子供たち、そして私たちの神、主が召される限り遠く離れた彼らに対するものだからです。

それが処方箋です！治さないでください、患者を殺してしまいます。それが、これらの人々の多く“父、子、聖霊”がこれを話している問題なのです。彼らは多くの霊的な人々を殺し、間違ったことを試しています。

90 そのようなことは何もありません。聖書の中で“父、子、聖霊”の名において洗礼を受けた人は誰もいません。カトリック教会までそのような儀式は一度も行われませんでした。カトリック教会はその母です。聖書を検索し、歴史を検索して調べてください。最初の命令は“父、子、聖霊”がカトリックの司祭によって行われました。

彼らはそれらを振りかけます。スプリングは売春婦の母であるカトリック教会によって叙階されました。すぐに売春婦のところに戻ってください。

要理要理にはこう書かれています“プロテスタントが救われるというものはあるのでしょうか？”“もちろん、カトリックの教義を認めているからということもあります。彼らは聖書を受け取らないでしょう。彼らは父と子と聖霊の名において洗礼を授けますが、そのための聖書を持っていません。”“しかし、カトリック教会がそれを始めたのです”と言い、彼らはそれを認めます。“カトリックの命令により、いくら救われるかもしれない。”

そんなことないよ！誰もそのように洗礼を授けたことはありません。罪の赦しのために、イエス・キリストの名において、聖書に振りかけたり、注いだり、その他の方法で水に浸したりした人は誰もいませんでした。少し前に読んだのですが、後で読むと言いましたか？その悔い改めと罪の赦しは神の御名によって宣べ伝えられるべきです。エルサレム、ユダヤ人だけはどこへ？エルサレムから始まるすべての国、すべての世界へ。

姦淫とは何でしょうか。「汚れ、不潔であること」です。彼女は淫婦なのです。彼女には汚れがつきまとっています。そして、この世の富んだ者たち、王たち、諸国の大人物たち、また群衆までもが、彼女と姦淫を行い、彼女の悪にあずかってきたのです。

どこへ話が進んでいるか、おわかりでしょう。そうですね。

30 さて、これを書いたのは私ではありません。しかし、もしこれを教えないなら、その責任は私にあります。今、私たちは教会について話しているのです。ですから、もう少し先へ進むにつれて、よく見ていてください。

「そこで御使いは、御霊によって私を荒野へ連れて行った。すると私は、一人の女が緋色の獣に乗っているのを見た。」

では、進みながらこれらの象徴を取り上げていきましょう。

さて、緋色とは「赤」です。赤は、一方では良い色でもあります。しかし他方では、評判の悪い色でもあります——赤い灯、危険を示す色です。緋色の……彼女は緋色、すなわち赤で身を飾っていました。——売春婦です。——そして一頭の獣の上に座っていました。

聖書において、獣は「力」を意味します。ご覧のとおり、多くの牧師たちがうなずいておられます。「その通り」と。なぜなら、彼らは聖書の教師だからです。**獣は「力」を意味するのです。**私たちは聖書の中で、黙示録13章やダニエル書に出てくるこれらの獣が、水の中から上って来るのを見ます。獣、すなわち力が、人々の中から現れて来るのです。

31 しかし、黙示録13章で、アメリカ合衆国が現れる時のことに気づきましたか。聖書の中で、水の中からではなく現れた唯一の獣なのです。聖書は、それが地から上って来たと言っています。そこには人々がいなかったのです。それがこの新しい王国でした。

そしてそれは小羊のように見えました。しかししばらくすると、竜のように語ったのです。これがこの国です。これは必ず起こらなければなりません。いつの日か、彼らは過ちを犯して、間違った人物を選ぶことになるでしょう。彼らはヨセフを知らないヨセフ……いや、ヨセフを知らないパロを立てることになるのです。彼らは以前にもそれを試みましたが、もし今回失敗しても、またやるでしょう。ついにはそうなるのです。聖書がそのように言っています。

私は政治家ではありません。どちらの側も曲がっています。私は自分の票

をイエス・キリストに投じています。私が関心を持っているのは、そのお方だけです。しかし言っておきますが、もしあなたの子どもたちのために何らかの自由を期待しているなら、今こそ眼鏡をぬぐって、はっきり見るべきです。それがどれほど近いのか、私にはわかりません。祈ってください。よろしい。

32 「何を持って？」

そこで御使いは、御霊によって私を荒野へ連れて行った。すると私は、一人の女〔教会〕が緋色の獣、すなわち冒涇の名で満ちた緋色の獣の上に座しているのを見た。その獣には七つの頭と十本の角があった。

「七つの頭」。さらに下っていくと、獣の上にあったその七つの頭は、その都が座している七つの丘のことだと書かれています。

では、七つの丘の上に建てられた都とはどの都でしょうか。

ローマです、そのとおりです。七つの丘の上に座している都です。ひとつの教会、ひとりの女、ひとりの淫婦——自分の力によって世界を支配するのです。

なぜ、これはもう新聞を読むのと同じくらい明白ではありませんか。

そうでしょう。確かにそのとおりです。

33 さて……

その女は紫と緋の衣をまとい——その女、すなわち教会は富んでいるのです——金と宝石と真珠で身を飾っていた。

彼らのうちのどこが所得税を払ったのか、言ってみてください。どこで何かの税を課されているのか、言ってみてください。自分たちのしたいことなら何でも通してしまうのです。それでも、その中に神の子どもたちがいることは確かです。もちろん、神にはそこにもご自分の子どもたちがおられます。

けれども同じことです。鍋がやかんを黒いとは言えないのです。プロテスタントはよくこう言います。

「カトリックは、あれを殺した、これを殺した、あの人も殺した」と。

では、ジョセフ・スミスを殺したのはだれですか。

私は彼に同意しているわけではありません。しかし、ここアメリカにおいて、私が自分の教えを語る権利を持っているのと同じだけ、彼にも自分の教えを語

も解きます。”彼は御言葉を守らなければなりません。ペンテコステの日、スポークスマンは誰でしたか？ピーター、鍵を持っていたから。

87 そして彼らは彼を笑って言いました、「この人たちは新しいワインでいっぱいです。”」

ペテロは言いました、「これは一日のうち 3 時間目なので、新しいワインでいっぱいではありません。」しかし、これは預言者ヨエルが語ったことです。「終わりの日に成就する、と神は言われる。『わたしはわたしの霊をすべての肉なる者に注ぐ。あなたの息子、娘は預言し、わたしの侍女、女奴隷にはわたしの霊を注ぐ。あなたの若者は幻を見、あなたの老人は夢を見るであろう。そして彼らは上の天と下の地にしるしを示すでしょう。主の御名を呼び求める者は救われるでしょう。』」

“彼らはこれを聞いて心を刺され、ペテロと残りの使徒たち、人々と兄弟たちに言った、救われるために私たちは何ができるのでしょうか？”これが教会の使命です。今、彼らはあなたがどのようにしてこの神秘的な体に入るのかを知りたいと考えています。よし。

使徒行伝第 2 章は、就任式の説教である 37 節から始まります。変えることはできない。変えることはできない。

聞く。

88 もしあなたの医者があなたに処方箋を書いて、それをドラッグストアに持って行って、インチキな薬剤師に頼んだら、その処方箋であなたを殺せるって知ってる？ご存知のとおり、その医師はそのようなことをたくさん書いています。なぜなら、彼はその訓練を受けているからです。そして彼はあなたにたくさんの毒を書き、その毒の多くを殺すためにそこに解毒剤を入れます。彼は他の薬を動揺させるために何かを設定しなければなりません。そして、その処方箋がその医師の書き方とまったく同じように記入されなければ、あなたは死んでしまうでしょう。

89 そして神は医者です。彼は魂の医者です。彼は救いの医者です。そしてイエスは、自分の神学をある人に教えました。ペテロは、自分の名前が以前に書かれたとき、その名前さえ読むことができなかつた無学な人でした。しかし、神は彼に聖霊を与え、教義を書くための鉛筆を与えてくださいます。そこでペンテコステの日、彼は処方箋を書きました。彼が何を書いたか見てみましょう。博士。サイモン ピーター、あなたの救いの処方箋が何であるか見てみましょう。何

パウロは使徒行伝 19 章で、そこに優れた牧師と改宗した弁護士がいるバプテスト教徒たちにこう言いました。「あなたは信じてから聖霊を受けましたか？」

彼は言いました。「原文にはそんなことは書かれていません。」

私は言いました、「確かにそう書かれています。私は強調ダイアグロットを持っていますが、ギリシャ語とヘブライ語の両方のあらゆる翻訳でそれが書かれています。彼は言いました。「あなたが信じてから聖霊を受けたのですか？」」私は言いました、「アブラハムは信じていました、それは本当でした。しかし、神は彼に割礼の印章を与えることによって、彼が自分の信仰を受け入れたというしるしを与えてくださいます。」 そうだね。神は彼を受け入れたというしるしを彼に与えたので、彼は彼を受け入れたのです。

もしあなたが信じていると言い、まだ聖霊を受けていないなら、神はまだあなたを封印しておらず、あなたを信頼するのに十分な信頼をまだ持っていません。あなたが神のところに来るとき、神はあなたの救いの日まで聖霊であなたを封印します。それが教会のメッセージです。アーメン！

85 もう少し先です。よし。さて、コリント人への手紙第一 12 章と 13 章 “一つの御霊によって、私たちは皆、一つの体にバプテスマを受けています。”

行為、これが私たちがそれに入る方法です。これが教会の落成式です、使徒行伝第 2 章です。ペンテコステの日が過ぎ、最初のメッセージが教会に宣べ伝えられたとき、彼らは皆聖霊に満たされました。マリア、使徒たちは皆、聖霊に満たされ、異言を話し、酔った人々の集団のようにただ持ち歩いていました。そして、彼らはただひどい時間を過ごし、ただ叫び、神を賛美し、聖霊の衝撃でよろめいていたのです。彼らはそれが日曜日であろうと月曜日であろうと、何日であろうと気にしませんでした。彼らはただ叫んだり、話したりしながら、とても楽しい時間を過ごしていました。偉大な知識人たちはこう言いました。“この人たちは新しいワインに酔っているのです。”

86 今、ここにペテロが立っており、王国の鍵、聖霊の鍵を味方につけています。イエスは言われた、「私は言います、あなたはペテロです」。この岩の上に私は教会を建てます；そして地獄の門はそれに勝つことはありません。” 何なんだよ？霊的に啓示された真理。“肉と血はこれをあなたに明らかにしていません。[あなたは神学校でこれを学んだことはありません。誰かが本からあなたにそれを教えたわけではありませんが、それは啓示です。]” 啓示！“私は言います、あなたはピーターです。わたしはあなたに王国の鍵を与えます。あなたが地上で縛るものはすべて天でも縛ります。あなたが地上で解くものはすべて天で

る権利がありました。

そして、ジョセフ・スミスを殺したのはメソジスト教会でした。

ソルトレイク・シティに行くと、大きな看板が立っています。

「メソジストの人たちよ、モルモンのコオロギに気をつけよ！」

そのとおりです。ジョセフ・スミスを撃ち殺したのはメソジスト教会だったのです。

ですから、カトリックのことで大声を上げるのはやめなさい。

もう少し見ていてください。聖書もまた、そのように語っているのです。

必要でしたら、このあとの流れも続けて訳します。

34 …金、宝石、真珠で飾り、手には金の杯を持っていた。その杯は、彼女の姦淫の汚れと忌むべきもので満ちていた。

——すなわち彼女の教理、彼女が人々に飲ませていたものです。地の王たちはそれを飲んでいたので。

ジャガーズ兄弟のビタミン剤の話信じられるような人なら——三十年も一人の男と結婚していて、たくさんの子どもまでいる女の人に水を振りかけて、また処女に戻し、その夜その夫との初夜に送り出せる、などということ——そんなことを信じる人なら、何だって信じられるでしょう。そうです。そんなことができると信じる人なら、何でも信じられます。しかし、地の王たちはそういうことを受け入れるのです。そうすれば自分が生きられるし、安心した気分にもなれるからです。

けれども、心の奥では、自分が腐っていることを知っているのです。

あなたをきよめるのは、イエス・キリストの血だけです。

しかし今、よく見てください。

彼女こそ最初の組織された教会だったのです。

聖書は、ここでそのことを語っています。

35 「その女の額に、秘められた意味を持つ名が記されていた。すなわち、『大

バビロン、淫婦たちと地の憎むべきものたちの母。』、大バビロン、淫婦たちと地の憎むべきものとの母」。

さて、よく見てください。私たちは皆これがローマ教会を指しているということに同意するでしょうし、ローマ側自身の書物、カトリック自身の書物も、それがローマ教会であることを認めています。彼ら自身の本がそう認めているのです。

私は『われらの信仰の事実』と呼ばれる本を持っています。これは司祭だけが持つものです。あるカトリックの婦人が私の側に改宗しましたが、その息子は司祭でした。そして彼女がその本を私にくれたのです。その後、その司祭の息子が彼女を再び教会へ戻らせたので、彼女はその本を返してほしいと言って来ました。しかし私は返しませんでした。証拠として取っておいたのです。自分が何について語っているのか、知っておきたかったからです。私は何かを語る時には、それを知らなければなりません。神がそのことについて私に責任をお求めになるからです。

36 そして覚えておいてください。彼女は「秘められた意味を持つ名が記されていた大バビロン」と呼ばれていました——私たちはそれがカトリック教会であることを知っています——しかし、よく見てください。彼女は「淫婦たちの母」なのです。では、淫婦とは何でしょうか。彼女自身と同じものです、すなわち売春婦です。

では、これらの組織はどこから出て来たのでしょうか。そこに彼らの母がいるのです。初めから彼らはそういうものだったのです。

そこであなたは言うでしょう。

「それが反キリストだというのですね。」

その通りです。

では、それが反キリストであるなら、私たちの組織はどうなのか、ということになります。

淫婦も売春婦も同じことです。すなわち、姦淫を行い、淫行を行い、人間の思いや知性のゆえに、偽りのものを受け入れるのです。聖書にある通り、

「人間の戒めを教理として教える」

のです。

つの教会の手紙によってではなく、“1つの聖霊によってです！ユダヤ人、異邦人、黄色人、黒人、白人は皆、ご自身の契約の血を通して、一つの御霊によってその一つの体にバプテスマを受けています。”そして血を見たら、私はあなたの上を通り過ぎます、“そして死からも、痛みからも、罪からも自由です！”神から生まれた者は罪を犯しません。なぜなら、神の種は彼の中に残り、彼は罪を犯すことができないからです。“罪はない！”ですから、あなたがたの天の父が完全であるように、あなたがたも完全でありなさい。“イエスは言われた。

どうすれば完璧になれるのでしょうか？あなたにはできない。あなたは罪の中で生まれ、不法行為の中で形作られ、嘘をつきながらこの世に来ました。しかし、あなたがキリストを罪の担い手として受け入れるとき、信仰によってキリストを受け入れるとき、あなたはキリストがあなたを救ってくださったと信じ、キリストはあなたの代わりに死んであなたの罪を負われたとき、神はあなたを受け入れ、あなたにバプテスマを授け、もう見ることはできません。罪。祭壇に贖罪があるのに、どうして私は罪人になれるのでしょうか？

83 市の条例で好きな速度で走る権利が与えられているのに、どうして警察官が市内で私を逮捕できるのでしょうか？私を逮捕することはできません。市長が「“ブランナム牧師、あなたは病気の電話に出ています、どのゾーンでも好きなスピードを出してください”」と言ったら、私にその推薦状を渡してください、どの警察官も私を受け入れることはできません。市長は私に、緊急時以外はそんなことはしないと信頼してくれたからです。

そして、神が私を受け入れて聖霊のバプテスマを授けてくださったとき、神は私が故意に罪を犯さないと確信してくださいました。アーメン！私は故意に罪を犯すつもりはありません。したがって、彼の息子は私のために償いをしました；そして、私が義とされ、彼が私を彼の体の中に連れて行ってくれた限り、私は罪人になることはできません——私は彼と一緒に救われました。私がすることではなく、神が私のためにしてくださったことです！それが福音です！

84 エペソ人への手紙 4章 30節には、“救いの日まで封印される神の聖霊を悲しんではなりません。”と書かれています

少し前に、有名なバプテスマの説教者が私にこう言いました。“ブランナム兄弟、アブラハムは神を信じました、そしてそれは義として彼に帰せられました。神を信じる以外に、彼は何ができたでしょうか？”彼は言いました。“私たちは信じるときに聖霊を受けると信じています。”

私は言いました、“でもあなたは間違っています、正直に間違っています。

ほら、あなたはそれに参加しません。それは不思議なものです。あなたはキリストの神秘的な体に生まれました。そうやって入っていくのです。

81 コリント人への手紙第一、第 12 章。もう少し先に進みましょう。あと数個あります。できれば、できれば取り出してみたいです。.. 暑いのはわかっていますが、ここから少し始めましょう。コリント人への手紙第一、第 12 章、第 13 節。“というのは、握手一つで、誓い一つで、「私は偉大な聖なるローマ教会を信じることを誓います」、握手して、あなたの名前を本に書いて、手紙一つで、手紙一つで?” それは老婦人の誕生日年鑑で読むかもしれませんが、神の聖書では読みません。はい、先生:

なぜなら、私たちは皆、一つの御霊によって[結合され、記録されているのでしょうか?]からです [一つの組織?]に洗礼を受けました 1つの体、[キリストの体である]私たちがユダヤ人であろうと異邦人であろうと、絆であろうと自由であろうと、そして1つの御霊を飲まされているのです。

メソジスト派の精神でも、バプテスト派の精神でも、ペンテコステ派の精神でもなく、一つの聖霊によって!

私たちは皆、この中でバプテスマを受けています

血で満たされた泉、

イマヌエルの静脈から引き出された、

罪人たちが洪水の下に沈んだ場所、

罪深い汚れをすべて失います。

瀕死の泥棒はそれを見て喜んだ

彼の時代のあの泉

彼のように下劣な私でも、

私の罪をすべて洗い流してください。

82 一体!私たちはどうやってその体に入り込むのでしょうか、どうやってその体に入るのでしょうか?一つの御霊によって、私たちは一つの体にバプテスマを受けます。そして、その体の中にいるとき、自由で復活が保証されます。“神は私たち全員の咎を神の上に置きました。” “1 回の握手によってではなく、” 1

それが今日 教会 と呼ばれているものなのですが、それは 神の王国に逆らうものなので

37 旧約聖書でもそれと同じです。神は、イスラエルが教会となる前から、彼らの王でありたいと望んでおられました。そして実際に王であられたのです。彼らには預言者サムエルという立派な人物がいましたが、彼が、もし王を求めるならどうということになるかを告げたにもかかわらず、彼らはなお王を欲しがりました。なぜでしょう。ほかの民のようになりたかったからです。ペリシテ人のようになりたかったのです。

それが、プロテスタントの人々の問題なのです。十分によいものを、そのままにしておけないのです。ただ……あちらで四十年前に聖霊が彼らの上を下り、力が注がれ始めた時、彼らは踊り、叫び、異言を語り始めました。けれども、それをそのままにしておかなかったのです。彼らはそれを組織化しなければなりませんでした。

それから一つの流れが起こり、彼らはそれを総会派と呼びました。さらに別の流れが起こり、イエス・キリストの御名について少しばかりの光を持つようになると、彼らはそれを新争点派と呼んで、外へ追い出しました。

それから彼らは P.A. of J.C.(イエス・キリスト・ペンテコステ諸集会) という組織を作りました。

さらに彼らの間に少し摩擦が起こりました。主が白い馬に乗って来られるのか、あるいはどのように来られるのか、ということなのです。するとまた別の組織を作り、P.A. of W.(世界ペンテコステ諸集会) と呼びました。

ああ、何てこと。それから今度は 神の教会 が出て来ました。

そして彼らは預言によって分かれ、また組織化したのです。

そして、そうするたびごとに、あなたがたは神のみこころから出て行くのです。

それは反キリストの霊なのです。

38 神の教会は自由です。神の教会は、どんな境界にも縛られていません。なぜなら、海から海に至るまで、すべては神のものだからです。地の上にいるすべての人間は神に属しています。その人がカトリックであろうと、プロテスタントであろうと、何であろうと、神は正直な心を持つ者たちを求めておられるのです。そ

して私たちは、主を信じる信仰によって救われるのです。そこに教会があるので、ですから、おわかりでしょう、教会は組織ではありません。

そして、あなたが「組織」というものを見るたびに、ただこう覚えておきなさい——その上には「反キリスト」と書かれているのです。ここにそれが聖書にあります。これは、私に読める限り、できるだけはっきり書かれていることです。ここには、組織に属している大切な友人たちもたくさん座っておられます。私は、あなたが反キリストだと言っているのではありません。あなた方のことをそう呼んでいるのではないのです。けれども、その背後にあるもの全体について言っているのです。

そしてまるで悪魔がそれをこういう具合にねじ曲げてしまったかのようです。つまり、そういうものを持っていなければ、説教することさえ許されない、というようにです。それは、国々が持っているのと同じことです。あなたは国家なしでは一人の人間として立てません。どこかの国に属していなければならないのです。アメリカ人であるか、ドイツ人であるか、何かでなければならぬのです。おわかりでしょう。すべてがねじ曲げられてしまっているのです。

39 ですから、本当に新しく生まれたクリスチャンというのは、ほとんど旅人のようなものです。世から見れば、その人ははみ出し者のように映るでしょう。しかし神の目には尊いのです。

もし時間があれば、ヘブル人への手紙11章を開いて、あの信仰の勇士たちがどのようにであったかを見たいところです……アブラハムがどのように踏み出して、自分を旅人、寄留者と呼んだかを。彼は、この世は自分の故郷ではないと言いました。むしろ、神が設計し、造られる都を求めてさまよっていたのです。

そして、もし私たちがキリストにあつて死んだのであれば、私たちはアブラハムの子孫を受け継ぎ、約束によって彼と共に相続人となるのです。

では、それは私たちが何をするのでしょうか。

旅人であり、さすらい人とするのです。

40 イスラエルがエジプトから上って来た時、そこにはモアブという大きな組織された国がありました。またエサウも、大きな組織された国でした。ところが、ここにイスラエルがいました。教派に属さないまま進んでいたのです。

その両者は、根本的にはどちらも御言葉の上に立っていました。覚えていてください、バラムはイスラエルがささげたのと同じいけにえをささげました。七

ます。

78 ヨハネの第3章を少しだけ取り上げて、神がそれについてここで何と言われたかを見てみましょう。どうやってこの教会に入るの？神があなたに提示する命題は何ですか？ヨハネ、第3章、1から8：

パリサイ人の中に、ユダヤ人の支配者ニコデモという人がいました

同じことが夜イエスのもとに来て、イエスに言った、「ラビ、私たちは知っています。..あなたは神から来た教師です。…神が彼とともにいてくださる以外に、あなたが行う奇跡を行うことはできません。」

イエスは答えて言われた、「まことに..」私はあなたに言います、「人が新しく生まれなければ..」本当に、私はあなたに言います、「人が新しく生まれなければ、彼は神の国を見ることができません」。

79 どうやってそれに入るの？そこに生まれた。質問をもっと読んでみましょう。

ニコデモは彼に言った、「人は年老いたときにどうやって生まれるのでしょうか？」[あの肉欲的なのが見えますか？教師、偉大な人、司祭、老いて、生涯聖書を読んでいます]彼は二度目に母親の子宮に入り、生まれることができるのでしょうか？[さて、それは今日耳にする知的教師の何人かと同じではないでしょうか？]

イエスは答えて言われた、「まことに..」私はあなたに言います、「人は水から生まれることを除いて[どうやって水に入るのですか？]」水と.. 霊よ、彼は神の国に入ることはできません。

80 “彼がそれに参加することは少ないでしょうか？”参加することはできません。あなたはそこに生まれなければなりません。“来て参加する”；“来て生まれる”ではありません

That which is born of the flesh is flesh; and that which is born of the Spirit is spirit. 肉から生まれたものは肉であり、霊から生まれたものは霊である。

私がおあなたに「あなたは新しく生まれなければならない」と言っていることに驚かないでください。

風が吹くところには、その音が聞こえますが、それがどこから来たのか、どこへ行くのかはわかりません。御霊から生まれたすべての人も同様です。

彼女は言いました、“それは正しくありません。”

私は言いました、“カトリック教会と使徒たちが聖書を書き、彼らはカトリック教徒だと言ったと言いましたか？”(私はそれに逆らいます。最後の使徒の死後、ニカイア公会議が終わるまでの300年間、カトリック教会は存在しませんでした。歴史のページを見せてください、あなたが望むものは何でも;あなたのカテキズムではありません、それは歴史と比較しないからです。そんなものはなかった。)しかし、私は言いました、“マリア...聖書には、イエスの母マリアと残りの女性たちは、百二十人とともに、その階段を登って上の部屋に行き、聖霊に満たされなければならないと書かれていました。彼らは酔ったようによろめき、異言を話し、大酒飲みの集団のように振る舞うまで。聖書にはそう書いてありました。”私はその詩を指で指して言いました、“読んでください。”

彼女は言いました、「“読みたくない”。読むべきではない。”

76 私は言いました、“あなたは正直ではありません。ここは処女マリアが聖霊を受け、異言を話し、酔った女性のようによろめいた場所です。さて、天国に行くなら、彼女は聖霊を受けなければならなかったのも、一緒に行くことはできません。そして、もし彼女がイエス キリストの母としてそうしなければならなかったとしたら、あなたはさらにそれをどれだけ必要としますか!”

彼女は言いました。“もし私がそのようなもので天国に行かなければならぬとしたら、私は天国に行きたくないでしょう。”

私は言いました、“心配することはあまりありません。とにかく、あなたはそんな風には行かないと思います。あまり気にする必要はないと思います。”それはまさに神の霊です。

77 “さて、あなたは聖霊があなたに臨んだ後の私の証人です。”さて、これは今何ですか、私たちは何を言っているのでしょうか?“それは何ですか?誰が仕組んだ?そしてそのメッセージは何でしょうか?” さあ、急いで、もう少し先に進みましょう。

4つ目は、“どうすればそのメンバーになれるのか?どうやって参加すればいいのでしょうか?”それが何であるかわかりますが、ではどうやってこの教会に参加すればよいのでしょうか?あなたはそれに参加しません。参加できない、参加する方法がない、あなたはその中に生まれてきたのです!私はブランナム家に51年間在籍していますが、家族に加わったことはありません。私はブランナムとして生まれました。そしてあなたは神の息子、あるいは神の娘として生まれ

つの祭壇——神の求められる数です——七つのきよいいけにえ、七頭の雄羊、すなわち来たるべき義なるお方を指し示していたのです。根本的には、両者とも正しかったのです。根本のところでは、です。

しかしバラムが見損なったのは、イスラエルの中にある超自然的なものでした。あの教派を超えた群れの中にあるものを、彼は見損なったのです。彼らには定まった行き先があるようには見えませんでした。彼らはさすらっていました。しかし、どこかへ向かう道の上にはいたのです。

それが今日の生ける神の教会なのです。世から見れば、それは組織されていません。しかしそれは、組織のきずなによってではなく、イエス・キリストの力と御霊によって、愛の結びつきによって一つに結ばれているのです。

41 メソジストの人とバプテストの人とが互いに肩をたたき合って、

「私の大切な兄弟です」

と言うようになるのです。彼らは、一致していなければ共に歩むことはできないと分かるからです。

人々はこう言います。

「あなたはクリスチャンですか。」

「私はバプテストです。」

それでは、その問いへの答えにはまったくありません。

「私はクリスチャンですか? 私はペンテコステ派です。」

それも、その問いへの答えにはなっていません。

もしあなたがクリスチャンであるなら、あなたは新しく生まれた被造物です。あなたは神の奥義の王国の中にいるのです。あなたの目はこの世のものに向けられておらず、上にあるものに向けられています。

そして、その時あなたは教会の中にいるのです。

それが教会なのです。

それは組織ではありません。決して組織にはなりえません。はっきり言っておきます。

生ける神の教会は、決して特定の一団体ではありません。

それは組織にはなれないのです。

それは神秘的なからだ、すなわち聖霊でなければならないのです。

もう少し先へ進みましょう。時間があれば、まさにそのところへ入って行きます。

42 では、これで教会とは何を意味するかがおわかりでしょう。教会とは、「呼び出された者たちの群れ」、すなわち、このメシヤの王国の王によってのみ定められる、呼び出された民のことなのです。ああ、すばらしいではありませんか。私はそれが大好きです。今日それを読んだ時……そこに「王国、メシヤ帝国」とあった時です。

その著者はそれを「メシヤ帝国」と表現していました。

そしてまた、その著者はこうも言っていました。

「生ける神の教会が組織されるなどということは、決してない。組織とは、本来あるべきものにとって代わるために取り入れられ、採用されたものにすぎない。」

43 それこそ、こうした偽りの教理がみな持ち込まれた、そのまさに同じやり方なのです——本物にとって代わるためにです。だからこそ、その女は手に、自分の忌むべきものの汚れに満ちた杯を持っていたのです。

さて、おわかりでしょう、私は……と言っているのではありません。ペンテコステ派も、カトリックと同じように罪があるのですし、ピルグリム・ホーリネスも、ナザレンも、バプテストも、メソジストも同じです。

しかし、それらすべての教派の教会の中にも、神の子どもたちがいます。彼らはこの神秘的な王国に属しているのです。ただ彼らは、自分たちの心をそこへ引き寄せる何かが起こるのを待っているだけなのです。

私は今夜、その人たちが東から西から、北から南から出て来て、自分たちをそこから引き離し、礼拝しながら、主の来臨を待ち望んでいることを知っていて、本当に嬉しいのです。聖書は、終わりの日に彼らがそうする、と言っています。まさにその通りです。

そしてこう言っています。

そして聖霊も臨まれるでしょう..それは教会の教えとなるでしょう。イエスはルカ24:49でこう言われました。… 私たちはそれにすぐ近づいているので、ここで 49 節の 1 秒だけ目を向けましょう。第46巻と第47巻を読みました。49 番目を見てください:

そして、見よ、わたしは父の約束をあなたたちに送ります。しかし、あなたたちが高いところから力を与えられるまで、エルサレムの町で[または待ってください、タリーは“待つ”という意味です]。

もしキリストが、聖霊を待つまで、3年半もキリストとともに歩んできた大勢の人々に福音を宣べ伝えさせなかつたり、福音を宣べ伝えることができなかつたりするなら、今日の教会は同じことをしなければなりません。聖霊を待ちなさい!

74 少し前、ここオレゴンでカトリックの女性と話していたのですが、彼女はこう言いました。“では、あなたが説教したり、叫んだり、泣いたりしていたあそこにいるバカどもが、天国にいて、天国を統治するということですか?”

私は言いました、“はい、奥様。”

彼女は言いました。“まあ、私たちはそんなことは信じていません。”

私は言いました、“あなたは神の言葉を信じていないからです。”

そして彼女は言いました。“私たちはマリアが私たちのために執り成しをしてくれると信じています。”

私は言いました、“それはまったく異教徒です。”

彼女は女神ではなかった、彼女は女性だ。“神の母”—どうして神は母親を持つことができたのでしょうか?“万歳、マリア、神の母。” どうして神は母親を持つことができたのでしょうか?彼女は神の子キリスト イエスを産みました。女性は創造者ではなく、男性の種を持っています。その人は創造者ではなく、神が命を創造します。それは神が子供たちを連れてくるように命じた単なる命令です。彼女は神の母ではありません。神には人生の始まりも終わりもなかったの、母親を持つことはできません。彼は永遠だ。彼女は神の母にはなれない。

75 そして私は言いました、“あなたが女神として見ているあなたの祝福された処女をあなたに話したらどうしますか、昨夜人々がしたように彼女が行動するまで神は彼女を天国に来させなかったと言ったらどうしますか?”

受ける人。…” こうあるべき姿、こう崩壊した姿を引用しましょう。“あなたがたは全世界とすべての国に行き、聖霊の力を示してください。これを信じてバプテスマを受ける者は救われ、それを否定する者は呪われるであろう。これらのしるしは、信じる者たちに従うでしょう。彼らは病人に手を置き、回復するでしょう。彼らは悪魔を追い出し、新しい言語で話すでしょう。これが続く兆候になります。”最後の節にはこうありました。“そして彼らは戻って来た。主は彼らと共に働き、しるしによって御言葉を確認された。”最初の教会はそうだった。

71 そして、聞いてください、イエスは言われました、“私はぶどうの木、あなたたちは枝です。”そして、枝が蔓を生じ、その蔓がブドウを実らせると、次の枝が出てきて、最初の枝と同じように実を結ぶことになります。

ああ、あなたはこう言います、“ブランナム兄弟、でもこれらすべての教会を見てください。”それは接ぎ木された蔓です。これで、柑橘類を接ぎ木できます。オレンジの木にレモンをつければ成長します。それが男たちが接ぎ木したものだ。そして、これらの組織は男性が接ぎ木したものです。いつもレモンです。教会の名前にこだわっているから成長するでしょう。しかし、言うておきますが、もしその木が自ら別の枝を伸ばしたら、オレンジ色になるでしょう。そして、もし神の力が別の教会を設立するなら、それは別のペンテコステとなり、その背後に別の使徒行伝が書かれるでしょう—なぜなら、それは神の教会だからです。

72 イエスは言われた、「“わたしはぶどうの木、あなたがたは枝である”。あなたは自分自身で実を結ぶことはできませんが、私は自分の自分自身を枝に投げ込みます。”そして、どんな実を結んだのか?“これらのしるしは信じる者たちに従うであろう。”

第二の教会が立ち上がれば、キリストの神秘的な体も同じしるしを持つでしょう。“しばらくすると、世はもうわたしを見なくなります。しかし、あなたがたはわたしを見るでしょう。わたしは、世の終わりまで、あなたがたのうち、すべての枝に、あなたがたと共にいるからです。”イエス・キリストは昨日も今日も、そして永遠に同じです。それが生ける神の教会です。それがその人です。それが彼の証人のようなものだ。

73 さて、教会も洗礼を教えなければなりません。バプテスマを受けなければなりません。それが委員会でした。イエスはマルコ 16 章で、「“信じてバプテスマを受ける者”」という言葉を使います、と言いました まず信じてから、罪の赦しのためにバプテスマを受けなさい。そうすれば、あなたは聖霊の賜物を受け取ることができます。

「彼らは東から西へ、北から南へと走り回って、神の真の御言葉を求める。パンや水の飢饉ではなく、神の御言葉を聞くことの飢饉が来る。」

人々はあなたにこう言いたがります。

「こちらに加わりなさい。こっちに入りなさい。」

しかし、神の王国には、加わるものなど何一つありません。あなたがそこに“加入”できるものは、ただの一つもないのです。

それは、教会の中へ生まれる経験なのであって、そこへ加入することではありません。

さて、このことは、もう少ししたらさらに触れるかもしれません。

ここに、まだいくつか聖句を書き留めてありますから。

44 では次に、第二の点へ進みましょう。全体を終えられるようにしたいのです。

だれがこれを建てたのか、つまりこの神秘的なからだをだれが始めたのか、ということです。

イエス・キリストです。

そして、この神秘的なからだのかしらは主ご自身です。主がその上の王なのです。ご自分のご支配の中で、ご自分のみこころを行っておられるのです。司教の支配でもなく、教会役員会の支配でもありません。メシヤご自身が王として、ご自分の領域の中で働いておられるのです。

それはいつ始まったのでしょうか。

ペンテコステにおいてです。

ペンテコステ派という組織ではありません。ペンテコステの体験です。

それが、あなたにとっての始まりなのです。

主はその到来について語られました。

何が起こるかを言われました。

そして、それが来ることを告げられたのです。

45 では、よろしければ、ルカ24章49節を開いてみましょう。ここでいくつか聖句を読み始めれば、これを書き留めておられる方々も記しておけるでしょう。ルカ24章49節です。ここで主が何と言われたかを見てみましょう。

「見よ。わたしは、わたしの父の約束をあなたがたに送る。だから、あなたがたは上からの力を着せられるまでは、エルサレムの町にとどまっていなさい。」

さて、主は来たるべき教会、来たるべき王国を約束されたのです。ではそのまま使徒行伝1章8節を開いてください。覚えていてください、主はまたマタイ16章18節で、この岩の上にご自分の教会を建て、よみの門もそれに打ち勝つことはない、と語られました。このことについては、あと少しで、別の主題に進みながら取り上げることにします。使徒行伝1章8節です。

「しかし、聖霊があなたがたの上に臨む時、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレム、ユダヤ、サマリヤ、さらに地の果てに至るまで、わたしの証人となる。」

来たるべき証人たちの王国です。主の復活の証人、主の力の証人、主が生きておられることの証人です。

「あなたがたは、わたしの証人なのだ。」

さて、使徒行伝1章8節です。

46 さらにまた、エペソ人への手紙1章22節にも、こうあります。……これを書き留めておられる方々は、ただ……書き留めるべき箇所はたくさんありますが、これをしっかり打ち込んで、確かにそうだと分かるようにしておきましょう。では、エペソ1章22節です。

「そして神は、いっさいのものをキリストの足の下に従わせ、キリストを、いっさいのものの上に立つかしらとして教会にお与えになった。」

「教会はキリストのからだであり、すべてにおいてすべてを満たす方の満ちておられるところである。」

この教会を建てたのはだれでしょうか。

イエス・キリストです。

司教でもなく、どこかの人間の集団でもなく、教皇でもなく、人が作り上げたどんな権力でもありません。イエス・キリストが、それを力をもって来るご自身

生ける神の教会は、自由に生まれたものです。

神の御霊によって生まれたのであって、どんな教派も必要としません。

彼らは、メシヤの王国の王に従うのです。

人が何と何を受け入れる必要などありません。

彼らは自由に生まれた者たちであり、御子によって自由にされた者です。そして、御子が自由にするなら、その人は本当に自由なのです。

これらのしるしは、その人たちに伴うのです。

68 この福音は宣べ伝えられるであろう！

誰がそれを説くつもりですか？神は無知な者たちを連れて行くことができ、アブラハムの子供たちに石を立てることができます。神はやりたいことは何でもできる、神は神だ！そしてそれが彼のやり方です。イエスは来られたとき、カヤパに電話をかけませんでした。彼は司祭を一人も呼ばなかった。彼は一人の神学者にも電話しなかった。彼は漁師、牧畜民、そして無知で無学な人々を連れて行きました。聖書にはこう書かれていました“ペテロとヨハネはどちらも無知で無学でした”。しかし、神は彼らに神の国を与え、彼らを通して働き、賢くて力強い人々の目と心を混乱させることができました。彼らは言った、“彼らは自分たちが無知で無学な人間であることに注意を払ったが、彼らがイエスと一緒にいたことには注意を払わなければならなかった。”なぜ？彼らは神の霊を彼らに宿していました。彼らは神が行動するように行動していました。彼らは神が行ったことをしていました。それはまさに彼が起ころうと言ったことです。メシア王国。ああ、こういうことがあって本当に嬉しい！“これらのしるしは信じる者たちに従うであろう。”確かに、兆候は彼らに従うでしょう。

69 さて、この教会が教えるもう一つのことは、神の癒し、つまり教会のメッセージです。マタイ10章で、神が教会を遣わされたときのことを引用しました。マタイ10章1節に行って、ちょっと調べてみましょう。イエスが教会を叙階し、教会を始めたときに何と言ったかを見てください。

そして彼は…12人の弟子たちを呼び、汚れた霊に対抗し、彼らを追い出し、あらゆる種類の病気や病気を治す力を与えました。

彼の教会への最初の依頼。

70 最後の使命、“全世界に行き、福音を宣べ伝えなさい。信じてバプテスマを

の罪を負い、打たれ、引き裂かれ、死にゆきながら、ほかのことばで語っておられた神の御子を指し示していたのです。

「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか。」

67 それが教会のメッセージなのです。

「わたしの名によって彼らは悪霊を追い出し、新しい異言を語る。」

主はそう言われました。

それが教会のメッセージです。

それが、主が教会に命じられたことなのです。すなわち、悪霊を追い出すことです。

「彼らは新しい異言を語る。

また蛇をつかむことがあっても、たとえ毒を飲んでも、決して害を受けない。

病人に手を置けば、病人はよくなる。」

それが教会に与えられた委任です。

それが、本当に信じている教会なのです。

それはメソジストで教えられていますか。バプテストで、長老派で、カトリックで、ルーテルで、ナザレンで、ピルグリム・ホーリネスで教えられていますか。

いいえ、決してそうではありません。彼らはそれを否定しているのです。

栄光あれ!

なぜでしょうか。

彼らは組織されているからです。そして、そのためにそれを行うことができないのです。

その中には、それを信じている会員が大勢います。けれども、その人たちはそのことについて何も言えません。そんなことを言えば、破門されてしまうからです。

それは、反キリストの霊が彼らを組織化してしまったからなのです。

の王国として語られたのです。

「ここに立っている者たちの中には……」

マタイ16章で、

「まことにあなたがたに言う。ここに立っている者たちの中には、神の王国が力をもって来るのを見るまでは、決して死を味わわない者たちがいる。」

と言われました。

そのほんの数日後に、主は十字架につけられ、そして聖霊が下ったのです。

「ここに立っている者たちの中には、神の王国が来るのを見るまでは、死を味わわない者たちがいる。」

47 「この時に、あなたは王国を回復してくださるのですか」と、ユダヤ人たちは主に尋ねました。

主は言われました。

「父がご自身の權威のうちに置かれた時や季節を、あなたがたが知ることはしない。しかし、あなたがたは力を受ける。」

使徒行伝1章です。

「聖霊があなたがたの上に臨む時、あなたがたは力を受ける。」

司教にされた後で力を受けるのですか。

説教者にされた後ですか。

教皇にされた後ですか。

祭司にされた後ですか。

違います。

「聖霊があなたがたの上に臨む時、あなたがたは力を受ける。」

それこそが、神が求めておられた証人なのです。

聖霊が臨んだ後の証人です。

「私は司教だ」という証人ではありません。

「私は牧師だ」という証人でもありません。

では何の証人なのか。

よみがえられた王の証人です。

それが、生ける神の真の教会なのです。

よろしい。

48 また、コロサイ1章17節と18節にも、同じことが書かれています。ここに
いる間に、これも読んでみましょう。コロサイ1章17節、18節です。

「キリストは万物よりも先に在り、万物はキリストによって成り立っている。

また、キリストはそのからだなる教会のかしらである。キリストは初めであり、
死人の中から最初に生まれた方である。それは、すべてのことにおいて、ご
自身が第一のものとなられるためである。」

では、この教会のかしらはだれでしょうか。

イエス・キリストです。

それはどんな王国でしょうか。

メシヤの王国です。

組織ではなく、教会です。キリストをかしらとする神秘的なからだなのです。

ああ、私はそれが大好きです。

御霊のうちに歩み、王に従い、この世には愚かなものと見えても、神の目には
尊い。御霊のうちに歩み、誤解され、笑われ、あざけられてもです。

「キリスト・イエスにあつて敬虔に生きようとする者はみな、迫害を受ける。」

「あなたがたより前の預言者たちを彼らが迫害し、家の主人をベルゼブル
と呼んだのであれば、その弟子たちをなおさら何と呼ぶことか。」

「これらのしるしは、信じる者たちに伴う。すなわち、わたしの名によって、彼
らは悪霊を追い出す。」

エルサレムだけでですか。

違います。

「全世界に、すべての被造物に。」

それは聖書ですか。

聖書がそう言っているのです。

それが教会のメッセージです。

全世界に、すべての被造物に、福音を。

そして、信じるすべての者に、これらのしるしが伴うのです。

65 「わたしの名によって彼らは悪霊を追い出し、新しい異言を語る。」

そして、かわいそうなナザレン派の人たちよ、あなたがたは彼らを「異言を
語る連中」と呼んでいる。あなたがたは、彼らと同じ教会に座ることさえしない
ではありませんか。ひどいことではありませんか。いったい天国へ行った時、ど
うするつもりなのですか。

イエスは異言を語りながら死なれたのです。彼らは言いました……。主は
語られた、しかも別の言語で語られたのです。確かにその通りです。

「主はヘブル語で語ったのか。」

いいえ、そうではありません。

あれはヘブル語のことばではありません。

主は天のことばで語られたのです。

66 アベルが岩の上でその小羊をささげた時、その小さな小羊は死にかけな
がら、首を切られていました。あれは、はるかエデンの園におけるキリストの型だ
ったのです。

その小羊は、死にゆきながら、ほかのことばで鳴いていました。その血まみ
れの毛が自分自身の血に染められていくその姿は、向こうのカルバリで私たち

彼らは、自分たちは信じていると言うかもしれません。

しかしイエスは言われました。

「これらのしるしは、信じる者たちに伴う。」

ところが彼らは、そのしるしを否定するのです。

「これらのしるしは、信じる者たちに伴う。」

どれほどでしょうか。

「わたしの名によって、彼らは悪霊を追い出す。」

64 そして、神の癒しを信じないあなたがた、教会の人たち。

[これは録音されているのです、わかるでしょう。私はいつもあなたがたにだけ話しているわけではありません。ほかのだれかがこれを聞くことになるのです。]

あなたがたは、自分たちは神を信じ、また自分たちの教会が福音を携えるように委ねられている、その委任を信じていると主張します。ところが、その最初のことこそ、神の癒しなのです。

イエスが弟子たちを遣わされた時、最初に何をお命じになりましたか。

マタイ10章1節です。

「病人をいやし、悪霊を追い出さない!」

そして、主がご自分の教会に最後に言われたことは何でしたか。

「病人をいやし、悪霊を追い出さない!」

アルファでありオメガ、ベニヤミンでありルベン、初めであり終わり、かつておられ、今おられ、やがて来られる方、明けの明星、ダビデの根また子孫。

ハレルヤ!

それがこのお方です。

その通りです。

けれども、あなたは御霊のうちに歩み、この世のものに背を向け、どんな鎖にも縛られないのです。

「御子が自由にするなら、その人は本当に自由なのである。」

アーメン。

それが生ける神の教会です。

そして、それを建てたのはそのお方なのです。

49 さて、使徒行伝1章8節の証人たちのところで、主はこう言われました。

「聖霊があなたがたの上に臨んだ後、あなたがたはわたしの証人となる。」

では、教会とは何でしょうか。

キリストの神秘的なからだです。

それを建てたのはだれでしょうか。

主イエスご自身です。

それはローマで建てられたのでもなく、イングランドでジョン・ウェスレーによって建てられたのでもありません。カルヴァンによって建てられたのでもなく、アメリカで——バプテスト派として——ジョン・スミスによって建てられたのでもありません。またカリフォルニアでペンテコステ派によって建てられたのでもありません。

それは、メシヤの王国の王であるイエス・キリストによって建てられたのです。

それを建てたのは、そのお方です。

主こそ王なのです。

主は王でありたいと望んでおられます。

私たちが治めたいと望んでおられます。

主でありたいと望んでおられるのです。

50 人々は主を受け入れて、

「救い主にはなっただきます」

とは言います。けれども、主としては受け入れようとしません。

Lord とは、「所有者」「支配者」という意味です。

「主よ、私の心に入って、地獄から救ってください。けれども、私に何をすべきかは指図しないでください。」

それが人々の態度なのです。だからこそ……。

聖書が、「すべての食卓は吐いた物で満ちている」と言っているのも不思議ではありません。

吐いた物が何かはご存じでしょう。

「犬が自分の吐いた物に戻るように」

とあります。

もし、これらの組織が最初からうまくいっていたなら、神はそれらを吐き出す必要はなかったはずですが、神はそれらを吐き出されたのです。それなのに、またそこへ戻るなら、あなたがたは再び吐き気をもよおさせることになるのです。

主はこう言われました。

「あなたが熱いか、冷たいかであってほしい。だが、あなたは生ぬるいので、わたしはあなたを口から吐き出そう。」

あなたがたは、神の胃をむかつかせるのです。

そして神は、私たちを吐き出されるのです。

51 では、いったん倒れた組織が、再び立ち上がった例を一つでも言ってみてください。

歴史によって、一つでもそんなものがあつたと示してみてください。

ひとりの人が、ある働きをもって立ち上がり、神はその人を祝福されます。ところが、気がついてみると、その人はそれをすぐに人間の手に引き渡してしまい、そこから一つの組織を作り上げるのです。そして、その時点でそれは死ぬの

私は今、実に信仰深い気持ちになっています。

すべての被造物に！

アーメン。

何に向かって宣べ伝えるのですか。

すべての被造物にです。

ああ、こういうことにもっと時間があつたならと思います。さて——

「信じてバプテスマを受ける者は救われる。」

——「ああ、私は信じていますし、バプテスマも受けています。」それでよい、結構です——

「信じてバプテスマを受ける者は救われる。しかし、信じない者は罪に定められる。」

「ああ、私は信者でよかった。」

ちよつと待ってください。

「そして」

——この and は接続詞であつて、文をつないでいるのです——

「そして、これらのしるしが……」

——ああ、あなたはしるしを信じないと思っていましたか。これはイエスご自身のお言葉です。このことについては主と論じてください——

「これらのしるしは……」

「ある時にはそうかもしれない」とか、「時々そういうこともある」ではありません。

「これらのしるしは、信じる者たちに伴うのである。」

さて、あなたが信じているかどうかを見てください。

あなたの組織が信じているかどうかを見てください。

「福音は、言葉だけで私たちのところに来たのではなく、聖霊の力と現れとによって来たのです。」

福音とは、神の力であって、御言葉が語っていることを、その通りに実現させるものなのです。

「全世界に福音を宣べ伝えなさい。」

福音を、白人だけにですか。あるいは、褐色の人だけに、黄色の人だけに、黒人だけにですか。

「すべての被造物に」です。

アーメン。

すべての被造物に。

それがその意味だと信じますか。

私は、ある日、神が一頭の雄牛を屈服させるのを見ました。

私は、神がスズメバチに刺させないようにされたのを見ました。

私は、一晩中死んだまま横たわっていたオポッサムを、神が生き返らせられるのを見ました。

すべての被造物です。

福音は、あなたが求めるどんなものに対しても効力を持つのです。

あなたは言うでしょう。

「それは間違っています、ブラナム兄弟。」

いいえ、間違っていないです。

63 イエスはあの木に向かって、

「今後だれも、おまえから実を食べることがないように」

と言われました。そして、その木に対して福音が宣べ伝えられたのです。

アーメン。

です。

歴史を調べてみてください。そこから再び立ち上がったものが一つでもあったでしょうか。

一つもありません。

なぜなら、それはみな、人々の間に働く反キリストの霊だからです。

52 モーセたちの時も同じでした。彼らは、自分たちで扱える何かを欲しがったのです。

「主よ、今年はこれだけ多くの会員が増えました。」

しかし、会員が何人いるかなど、いったい何の違いがあるのでしょうか。

私たちが求めているのは、教会の会員ではありません。

私たちが求めているのは、神の王国の中に生まれたキリストのからだの一員です。

それは、人の意志によってではなく、神のみこころによって生まれるのです。人の霊によってでもなく、人の知性によってでもありません。

パウロはこう言いました。

「私は人の知恵をもってあなたがたのところへ来たのではない。神の御霊と、その復活の力をもって来たのである。それは、あなたがたの信仰が人の知恵や、人の言葉の巧みさの上に立つのではなく、イエス・キリストの復活の力の上に立つためである。」

彼はそのようにして来たのです。

神が私たちを助けてくださって、私たちも同じことを行えますように。

53 さて、それぞれの点にあまり時間をかけすぎたくはありません。次に知りたいのは、「この教会のメッセージとは何か。この教会は何を教えるべきなのか。そのメッセージは何か」ということです。

私がまず思い浮かべる、この教会——すなわち神秘的なからだ——が教えるべき第一のメッセージは、悔い改めです。では、もう一度しばらくルカ24章を開いてみましょう。ルカ24章です。教会が最初にならなければならないことは、悔

い改めることであり、また悔い改めを教えることなのです。

さて、イエスが地上を去ろうとしておられる時です。これは最後の章、主が地上を去ろうとしておられる場面です。ルカ24章46節。46節から読み始めましょう。

「こう書いてある。キリストは苦しみを受け、三日目に死人の中からよみがえり、

そして、罪の赦しを得させる悔い改めが、その御名によって、エルサレムから始まって、すべての国々に宣べ伝えられる。

あなたがたは、これらのことの証人である。」

そして、神に対する悔い改めと罪の赦し——ああ、ここはしっかり心にとどめておいてほしいのです。なぜなら、このあとすぐ、この「罪の赦し」について語ることになるからです——それが、すべての国々に向かって、主の御名によって宣べ伝えられなければならないのです。それはエルサレムから始まるのです。

「あなたがたはこれらのことの証人である。」

54 [テープに空白あり]

「……苦しみを受ける」と、聖書は言っています。主こそ、預言者たちが語っていたそのお方なのです。主こそ、聖書全体がその方を中心に回り、その方に集約されているそのお方なのです。そうであるなら、何が教えられるべきか、何がなされるべきかを、主がご存じないはずがありません。

そして主は、悔い改めと罪の赦しとが、証しとしてすべての国々に宣べ伝えられなければならない、と言われました。それはエルサレムから始まるのです。

さて、組織はローマから始まりました。組織教会はローマから始まり、それからドイツへ行ってマルティン・ルターに至り、イングランドへ行ってウェスレーに至り、アメリカへ行ってジョン・スミスに至り、カリフォルニアへ行ってペンテコステ派に至りました。

しかし、教会はエルサレムから始まったのです。

神に対する悔い改めと、罪の赦しのためのイエス・キリストの御名によるバプテスマは、エルサレムから始まりました。

「それはあなたがたに心の痛みと苦しみをもたらすことになる。彼はあなたがたの息子や娘たちを取るだろう。彼らを汚し、さまざまなことをするようになる。彼はそうするのだ。」

そして実際に、その通りになったのです。

それでもなお、彼らは王を欲しがったのです。

61 それが今日も同じなのです。ああ、私たちは何かの名札を自分に付けていなければならないのです。人に尋ねられると、

「私たちはメソジストです、バプテストです」

と言わなければならないのです。

しかし、ただ「私たちはクリスチャンです」と言えばよいのです。

その通りです。「キリストのような者」です。

主が死人の中からよみがえられた後でさえ、彼らはそれを信じなかったのです。

そして主は彼らに言われました。

[この大いなる委任をよく見てください]

「あなたがたは行って……」

どれほどの世界へですか。

[会衆「全世界です」]

ああ、私はてっきりエルサレムだけかと思っていました。

「これらのしるしはエルサレムだけのものだ」と言う人もいますからね。

「全世界に出て行って、福音を宣べ伝えなさい。」

62 福音とは何か、知っている方はどれほどいますか。

ただの言葉ではありません。

パウロはこう言いました。

主がそれをなされるのを見た人がどれほどいるでしょうか。

その通りです。私たちは、主がそれをなされることを知っています。

主は生きておられます。

主はここにおられます。

主は私たちの心の中におられるのです。

59 彼らはそれを信じません。その当時も信じませんでしたし、今も信じません。彼らは、主は死なれ、それで話は終わったのだと考えています。そして、何年か前にある人物が立ち上がって教会を設立し、教理問答書を書き、それを自分たちは握っているのだ、というような、何か歴史的なものを持っているにすぎないのです。

それは異教そのものです。

その通りです。そこには真理がありません。

ああ、私は「真理がない」と言っても、その人がそうしたかもしれないし、その人がきわめて誠実だったかもしれない、ということまでは否定しません。

しかし、神はそのようなやり方でご自分の教会を治められはしません。

神は決して、そのようなものを望まれませんでした。

60 王を求めた時、サムエルは彼らを呼んで、こう言いました。

「ひとつ、あなたがたに尋ねたい。私はこれまであなたがたを裏切ったことがあったか。私はあなたがたの金を求めたことがあったか。主の御名によって語って、正しくなかったことを一度でも言ったことがあったか。神は、あなたがたに王を持たせたいのではない。神ご自身が、あなたがたの王でありたいのだ。」

すると彼らは言いました。

「おお、サムエル、その通りです。あなたは正しい。あなたは良い預言者です。あなたは私たちに真実以外のことを語ったことはありません。私たちから金を求めたこともありません。それらは本当です。けれども、私たちはほかの者たちのようになりたいのです。とにかく王が欲しいのです。」

サムエルは言いました。

そして、「そうあるべきだ」と主は言われました。

みなそこに到達する、とは言われませんでした。

それはエルサレムから始まるべきであり、全世界へ行くべきであり、宣べ伝えられるべきなのです。

しかし実際には、それはごくわずかしが行われていません。

けれども、それが主の言われたことです。

それが主のメッセージです。

それが教会のメッセージなのです。

それを教えている教会を私に示してみてください。

それがどこにあるのか言ってみてください。

見つかりません。

55 さて、イエスは王であり、いつまでも生きておられる——これが第二のメッセージです。

教会が教えるべきことは、イエスは王であり、永遠に生きておられるということです。マタイ28章20節です。

「わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。見よ。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」

〔その通りでしょう。〕

ヘブル13章8節。

「イエス・キリストは昨日も今日も、いつまでも変わることはない方です。」

それが教会のメッセージです。

主のみわざを行い、主の復活を証明し、証人となることです。

では次に、使徒行伝5章32節を見てみましょう。彼らがそれを持っていたかどうかを見るためです。使徒行伝5章32節です。

「私たちはこれらのことの証人である。そして神がご自身に従う者たちにお与えになった聖霊もまた、その証人である。」

〔それは証しされなければならないのです。〕

56 ヨハネ14章12節では、教会が何を行うべきかという教えが与えられています。ヨハネの福音書14章12節を見てみましょう。そこに何とあるかを見れば、それははっきり確かめることができます。では、ヨハネ14章12節です。

「よくよくあなたがたに言う。わたしを信じる者は、わたしのしているわざをするであろう。さらに、それよりも大きなわざをするであろう。わたしが父のみもとに行くからである。」

それが教会のメッセージなのです。

イエス・キリストは昨日も今日も、いつまでも変わることはない方であり、教会の中に生きておられ、教会の王であり、死人の中からよみがえられ、昨日も今日も、いつまでも同じお方です。

そして、主がなさったのと同じわざを行い、イエスがされたのと同じことを行うのです。

それが教会のメッセージです。

もし教会がそれを教えていないなら、その教会は何かの偽りの神学を教えているのです。

それこそ、イエスが彼らに宣べ伝えるよう命じられたことなのです。

57 では、ほかには何があるでしょうか。

また、どうすればこうした人々について見分けられるのでしょうか……。彼らはこう言います。

「いや、私は信者です。」

それでは、信じる者たちに対して、主がご自分の教会に与えられた最後の委任が何であったかを見てみましょう。マルコ16章を開いてください。マルコ16章を取って、主が教会に対して最後に語られたことが何であったのかを見てみましょう。そして、それによって、私たちが主の委任に従っているかどうかを確かめようではありませんか。マルコ16章、14節から読み始めましょう。

さて、その後、十一人が食事をしているところに、イエスはご自身を現わされた。

——これは主が復活された後のことです。——

さて、ここに教会に対する委任があります。よく聞いてください。最後の委任です。

私たち自身を確かめてみましょう。自分たちが本当に信者なのか、またこの教会の中にいるのかどうかをです。

その後、十一人が食事をしているところに現われ、主は、復活した自分を見た人たちの言うことを彼らが信じなかったのも、その不信仰と心のかたくなさをお責めになった。

58 だれかが主を見たのです。だれかがそのことを彼らに伝えようとしていたのです。ところが、彼らはそれを信じなかったのです。まさに今日も同じではありませんか。

私たちは、主が生きておられることを知っています。私たちのうちには、主の御霊の証しがあります。私たちは、主の力が会衆の上を動き、何万という人々に対して、主が地上におられた時と全く同じように、その思いと心を見分けられるのを見ています。

聖書が言う通りです。

「神の御言葉」——そして主こそ、その神の御言葉なのです。

「初めにことばがあった。ことばは神と共にあった。そしてことばは肉となって、私たちの間に住まわれた。」

また、

「神の御言葉は、もろ刃の剣よりも鋭く、力強く、骨の髄までも刺し通し、心の思いと志を見分ける。」

キリストは言われました。

「わたしがしているわざを、あなたがたもしよう。」

ほら、主がそれをなさるのを見てください。